

**京都市**  
**結婚と出産に関する意識調査**

**【結果報告書】**  
**（概要版）**

平成21年6月

京 都 市

# 目 次

## I 調査の概要

|                |   |
|----------------|---|
| 1 調査の目的 .....  | 2 |
| 2 調査概要 .....   | 2 |
| 3 報告書の見方 ..... | 2 |

## II 調査結果

|                                     |    |
|-------------------------------------|----|
| 1 回答者の属性 .....                      | 4  |
| 2 少子化について .....                     | 7  |
| 3 結婚について .....                      | 11 |
| 4 出産について .....                      | 22 |
| 5 仕事と生活の調和の推進（ワークライフバランス）について ..... | 27 |
| 6 最後に .....                         | 33 |

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

---

京都市では、平成17年1月に策定した子育て支援施策の総合計画である新「京（みやこ）・子どもいきいきプラン」※1（以下「現行プラン」といいます。）に基づき、市民・地域ぐるみで子育てを支え合う子育て支援の風土づくりを進めてきましたが、現行プランの計画期間が平成21年度までとなっていることから、これを見直し、平成22年度から平成26年度までの5年間の計画期間とする新たな計画※2を策定することとしています。

本調査は、この新たな計画の策定に際し、子育て支援施策の展開の方向性を検討する基礎資料として活用する目的で実施しました。

- ※1 次世代育成支援対策推進法に規定される市町村行動計画の前期計画（計画期間：平成17～21年度）に位置付けるものです。
- ※2 次世代育成支援対策推進法に規定される市町村行動計画の後期計画（計画期間：平成22～26年度）に位置付けるものです。

## 2 調査概要

---

- ・ 調査地域 : 京都市全域
- ・ 調査対象者 : 平成20年4月1日現在で18歳以上35歳未満の市民
- ・ 調査期間 : 平成20年12月12日から12月26日まで
- ・ 調査方法 : 郵送配布・郵送回収（無記名回答）

|               | 調査票配布数 | 有効サンプル数 | 回収率   |
|---------------|--------|---------|-------|
| 結婚と出産に関する意識調査 | 6,500  | 2,140   | 32.9% |

## 3 報告書の見方

---

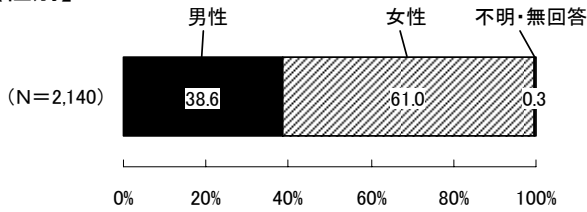
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中の「N（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。

## II 調査結果

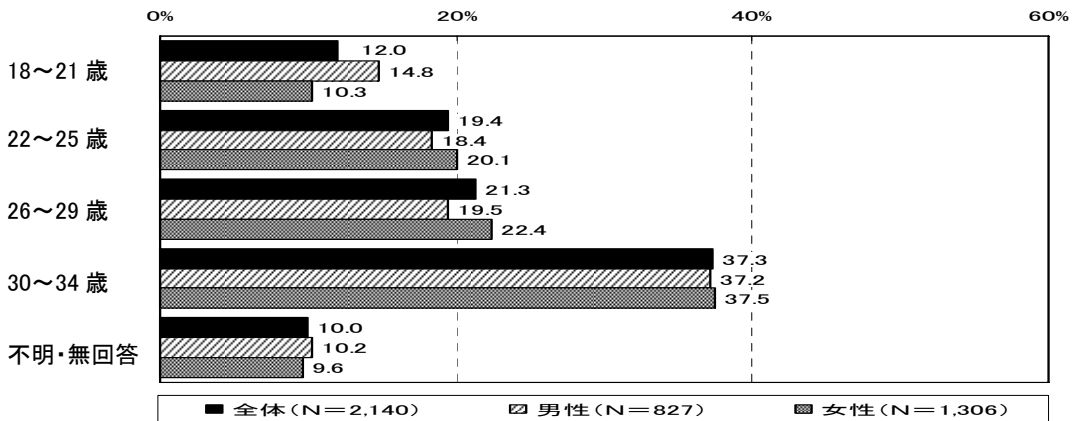
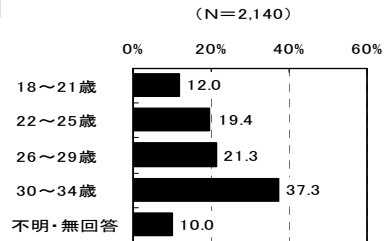
# 1 回答者の属性

問1 あなたの性別と年齢をおうかがいします。(年齢は平成20年4月1日現在)

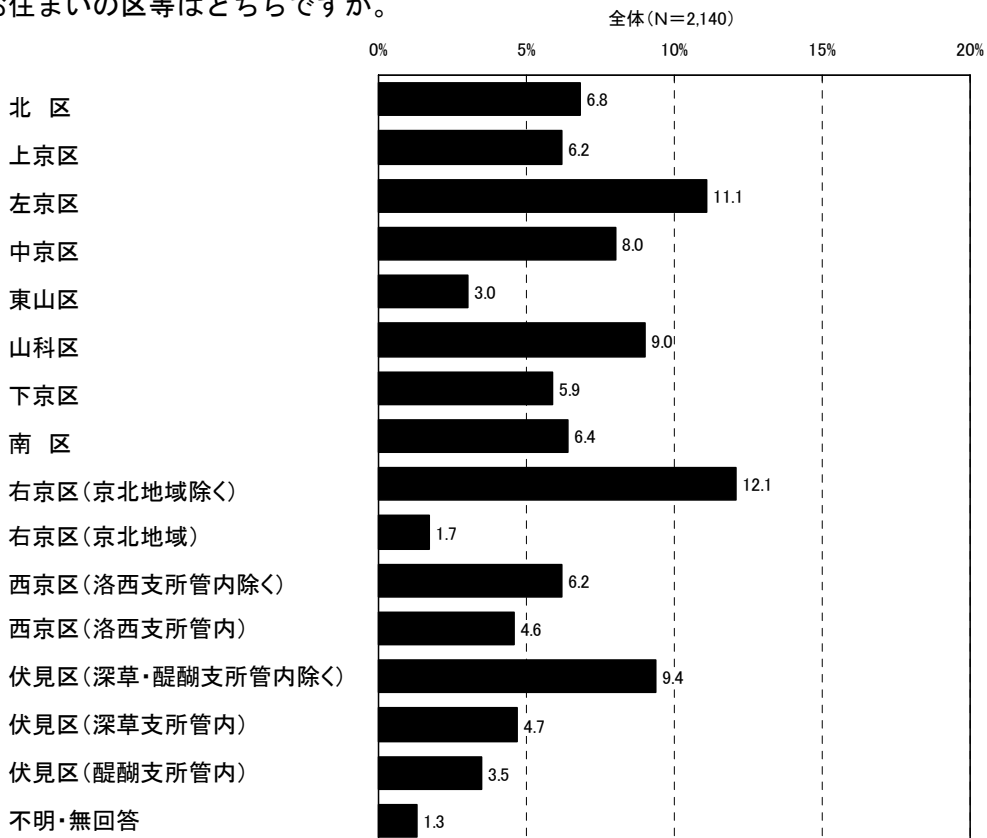
【性別】



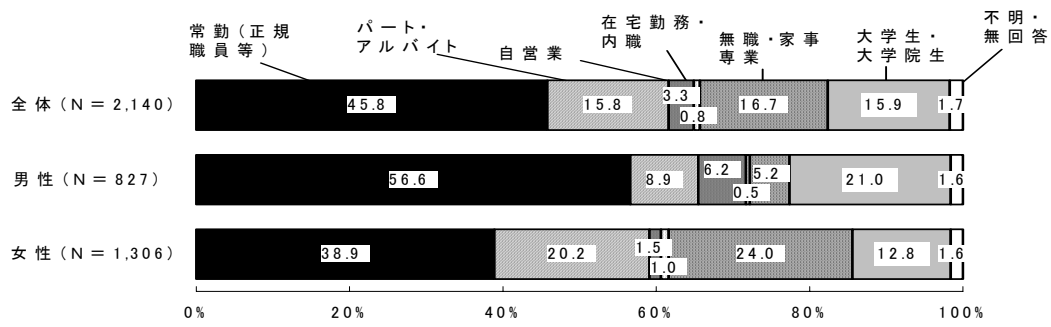
【年齢】



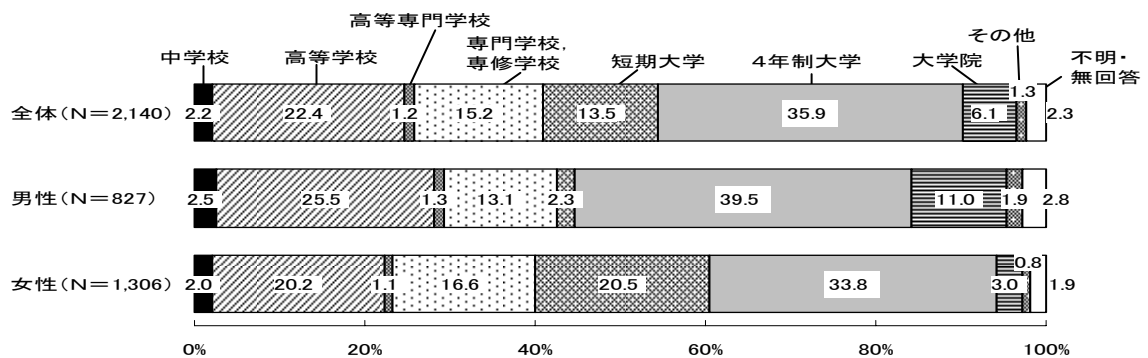
問2 お住まいの区等はどちらですか。



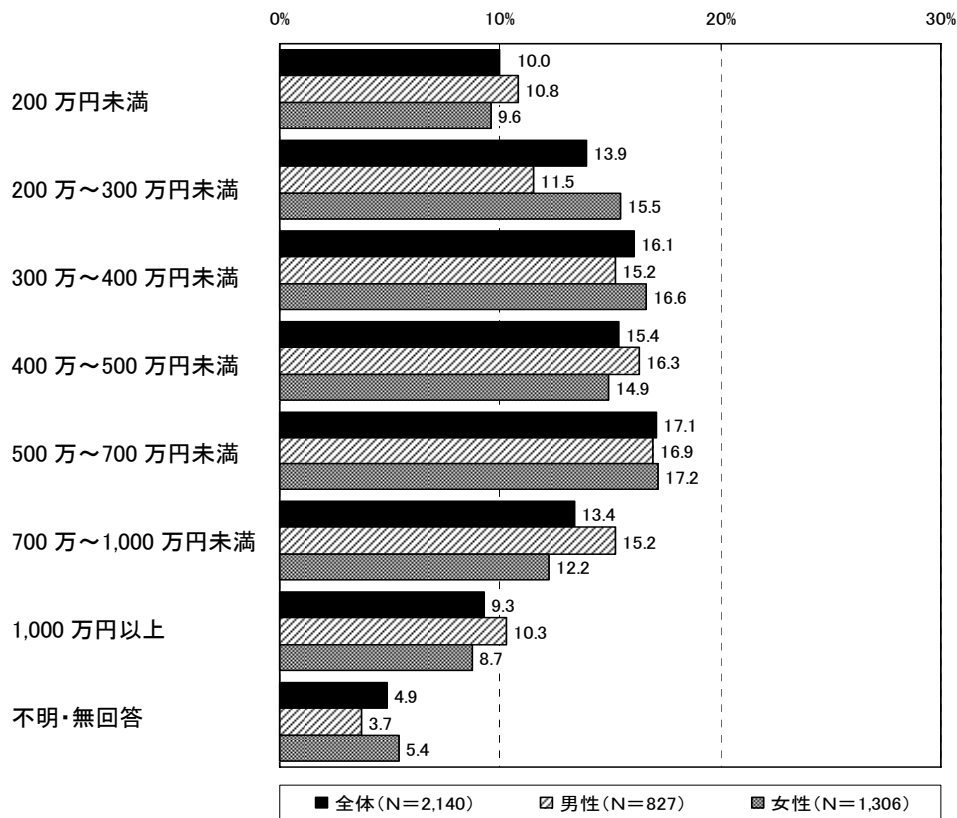
問3 あなたの職業をおうかがいします。



問4 あなたの最終学歴をおうかがいします。



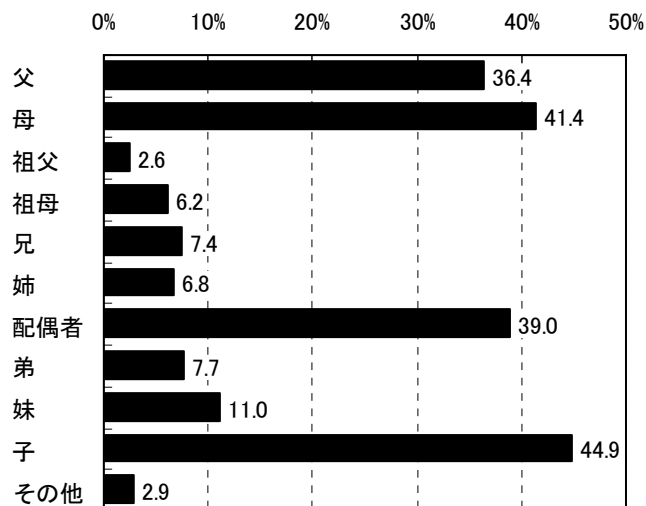
問5 同居しているご家族全員の総所得（世帯の年収）はいくらくらいですか。



問6 あなたを含めて、同居しているすべてのご家族について、あなたからみた続柄、職業、年齢、健康状態や心身の状況についてお答えください。年齢は、平成20年4月1日現在の年齢をご記入ください。

【同居の状況】

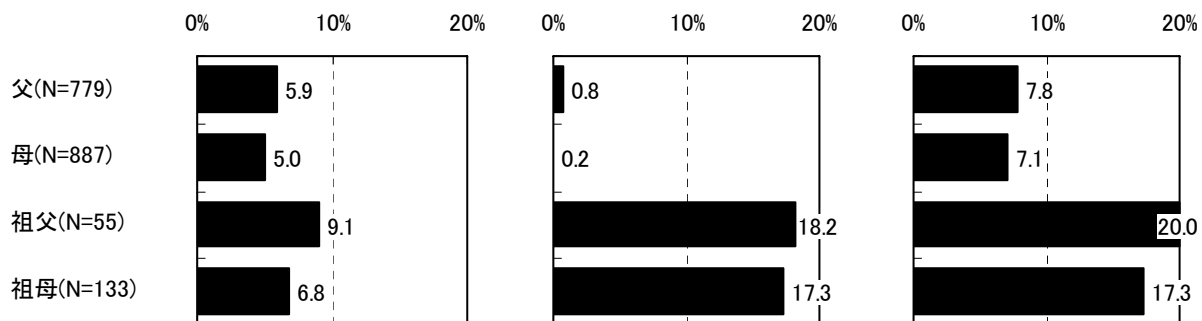
(N=2,140)



【現在、病気療養中の方】

【介護が必要な状態の方】

【心身に障がいがある方】



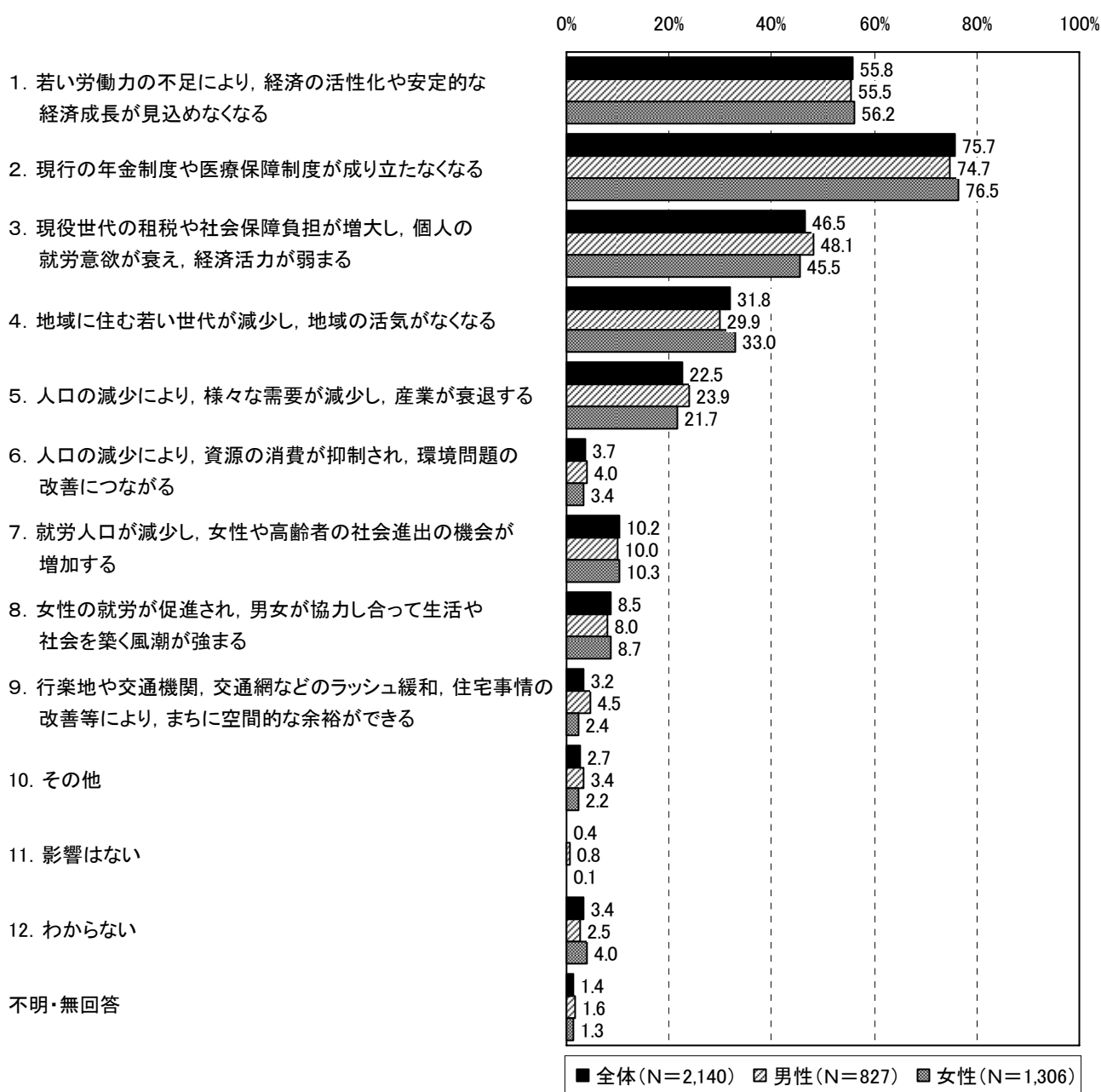


## 2 少子化について

問7 少子化が社会に与える影響として、どのような問題点あるいは利点があると思いますか。  
(あてはまるもの3つまで)

「2. 現行の年金制度や医療保障制度が成り立たなくなる」が75.7%と最も高く、次いで「1. 若い労働力の不足により、経済の活性化や安定的な経済成長が見込めなくなる」が55.8%、「3. 現役世代の租税や社会保障負担が増大し、個人の就労意欲が衰え、経済活力が弱まる」が46.5%と高くなっており、社会にとって少子化は問題であると思われる方が多くなっている。

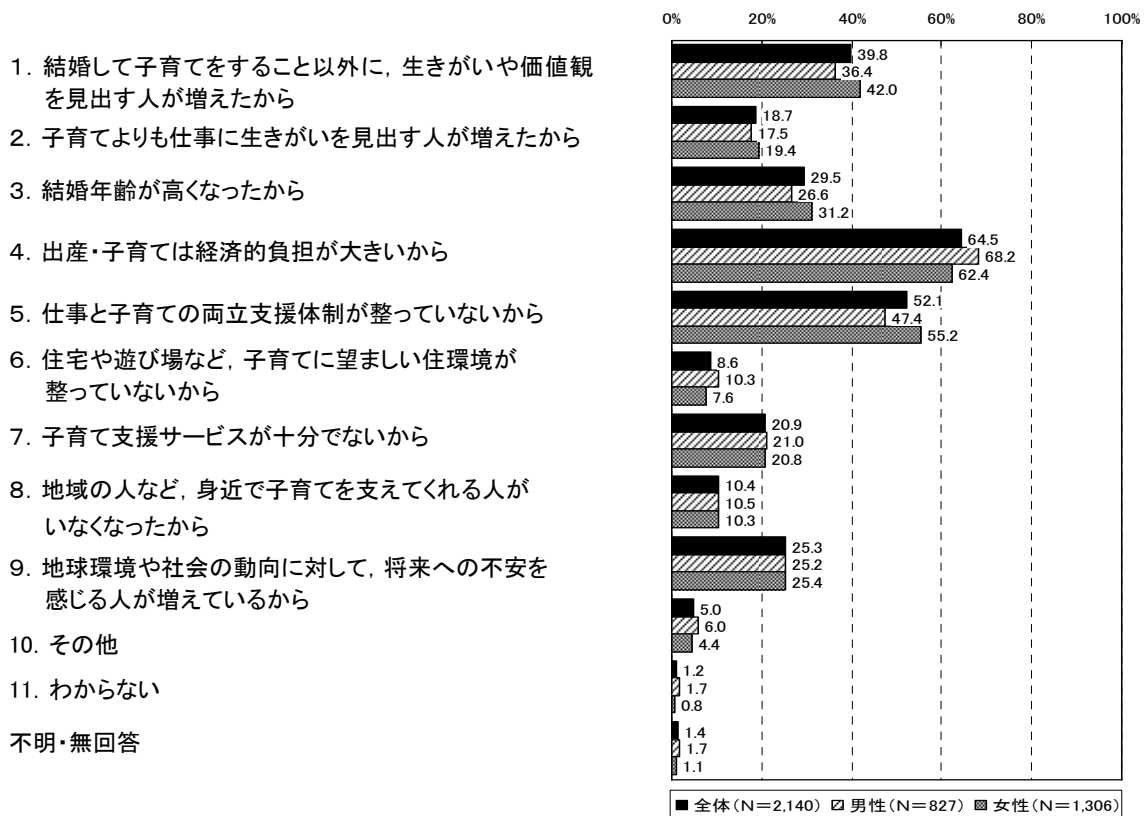
性別による大きな差はみられない。



問8 出生率が低い主な原因は何だと思いますか。(あてはまるもの3つまで)

「4. 出産・子育ては経済的負担が大きいから」が64.5%と最も高く、次いで「5. 仕事と子育ての両立支援体制が整っていないから」が52.1%、「1. 結婚して子育てをすること以外に、生きがいや価値観を見出す人が増えたから」が39.8%と高くなっている。

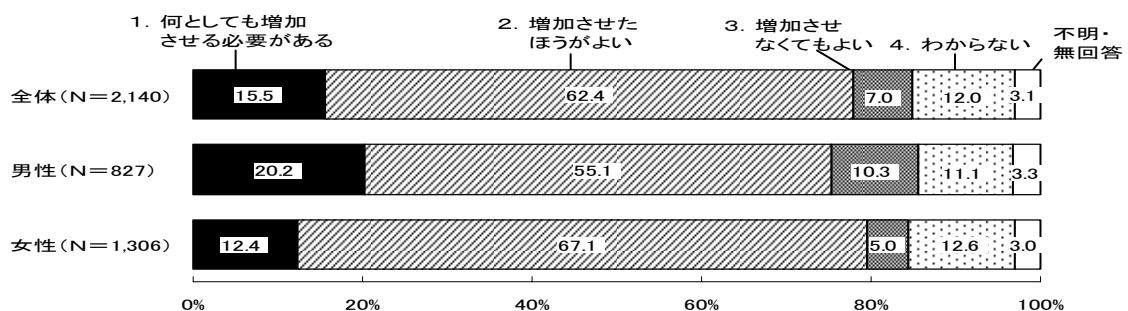
性別にみると、「5. 仕事と子育ての両立支援体制が整っていないから」については、「男性」が47.4%に対し、「女性」が55.2%と約8ポイントの差が生じている。



問9 あなたは、出生率の増加を必要と考えますか。

「1. 何としても増加させる必要がある」と「2. 増加させたほうがよい」を合わせて『増加させる必要性を感じる』人が77.9%を占め、「3. 増加させなくてもよい」と考えている人は7.0%にとどまっている。

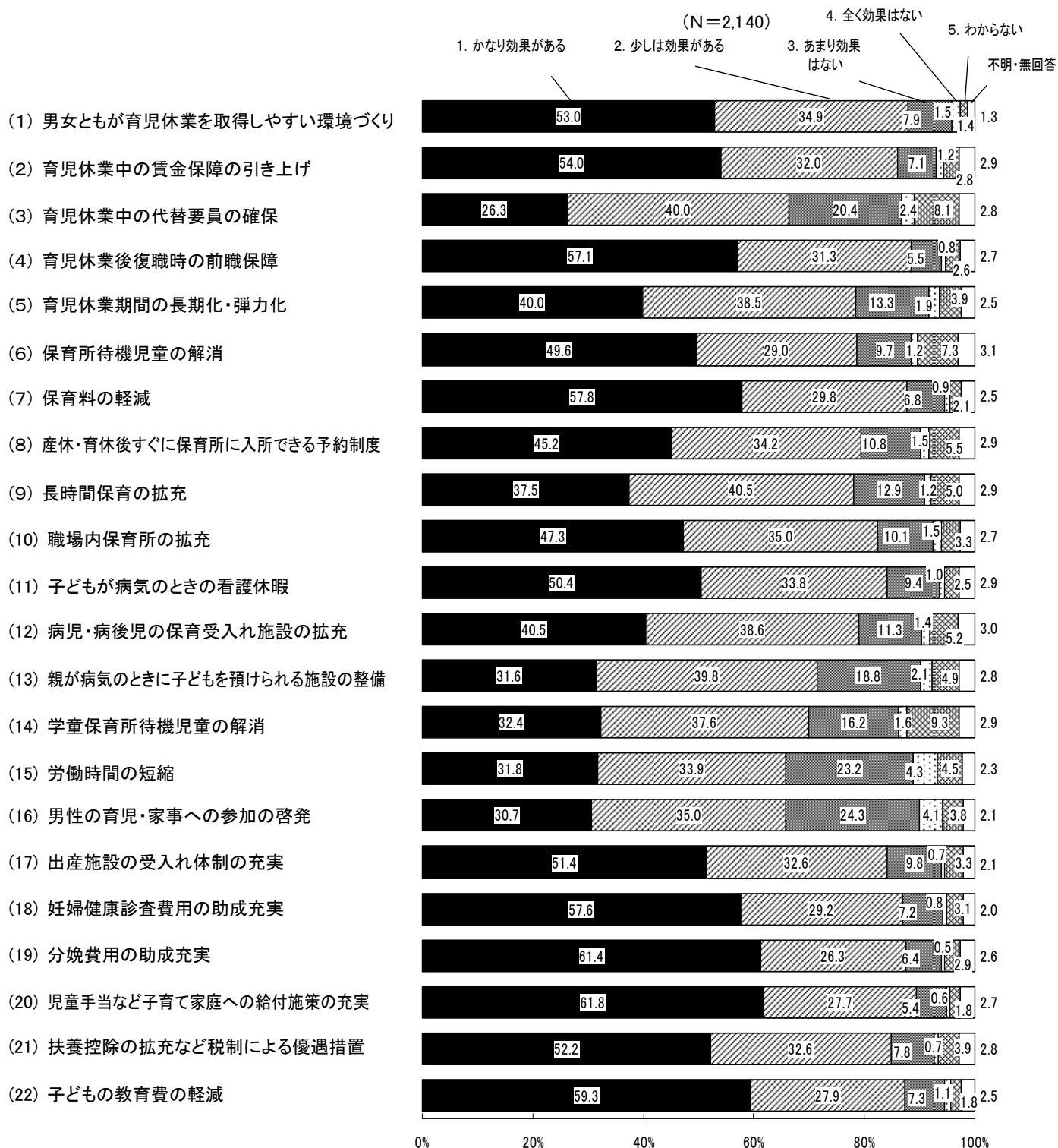
性別による大きな差はみられない。



問 10 以下の施策等について、少子化対策として効果があると思いますか。

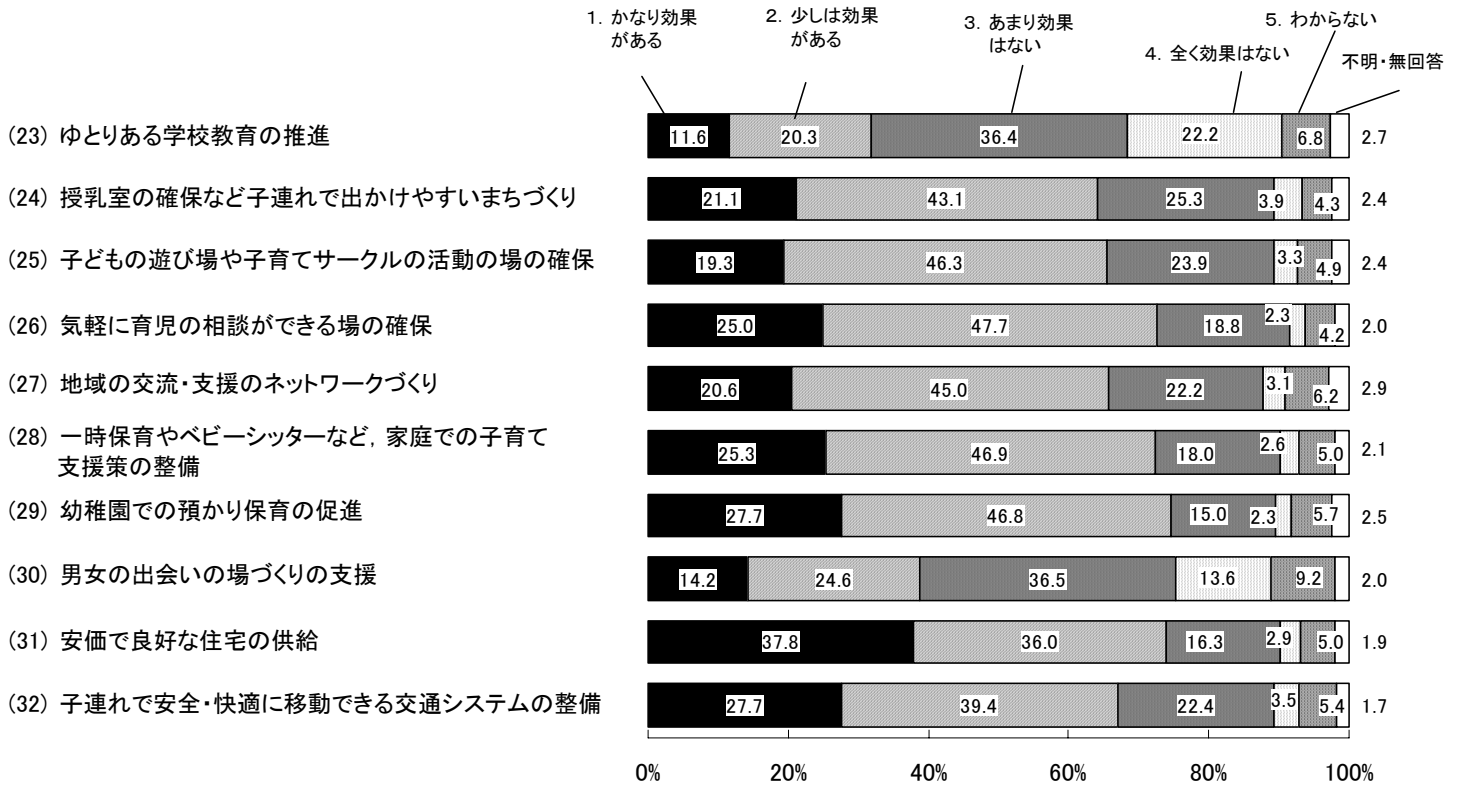
「1. かなり効果がある」と「2. 少しは効果がある」を合わせた『効果がある』の割合が高い施策等は、「(20) 児童手当など子育て家庭への給付施策の充実」が最も高く 89.5%、次いで「(4) 育児休業後復職時の前職保障」が 88.4%と高くなっている。

一方で、「3. あまり効果はない」と「4. 全く効果はない」を合わせた『効果はない』の割合が高い施策等は、「(23) ゆとりある学校教育の推進」が最も高く 58.6%、次いで「(30) 男女の出会いの場づくりの支援」が 50.1%と高くなっている。



(23)～(32)は次頁につづく

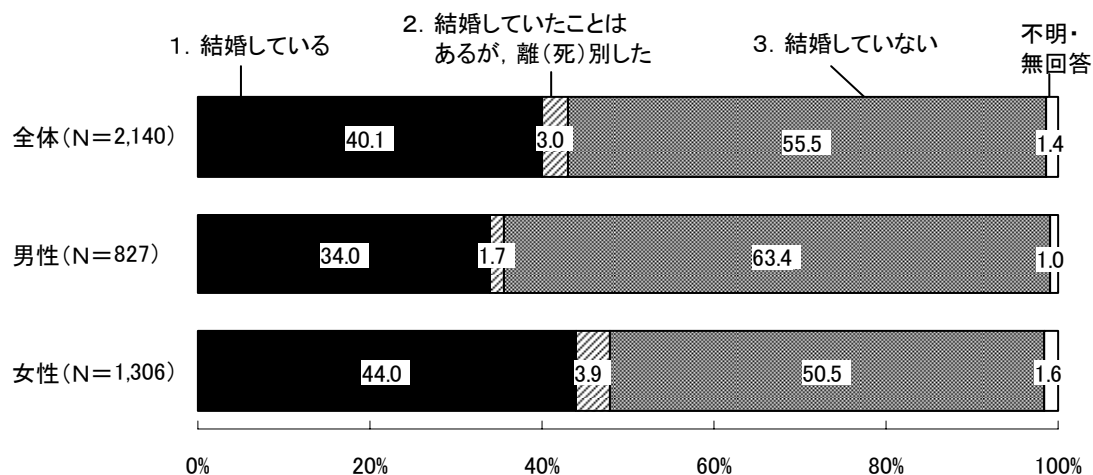
(N=2,140)



### 3 結婚について

問 11 あなたは結婚（入籍していないいわゆる事実婚を含みます）されていますか。

「3. 結婚していない」が55.5%、「1. 結婚している」が40.1%となっている。

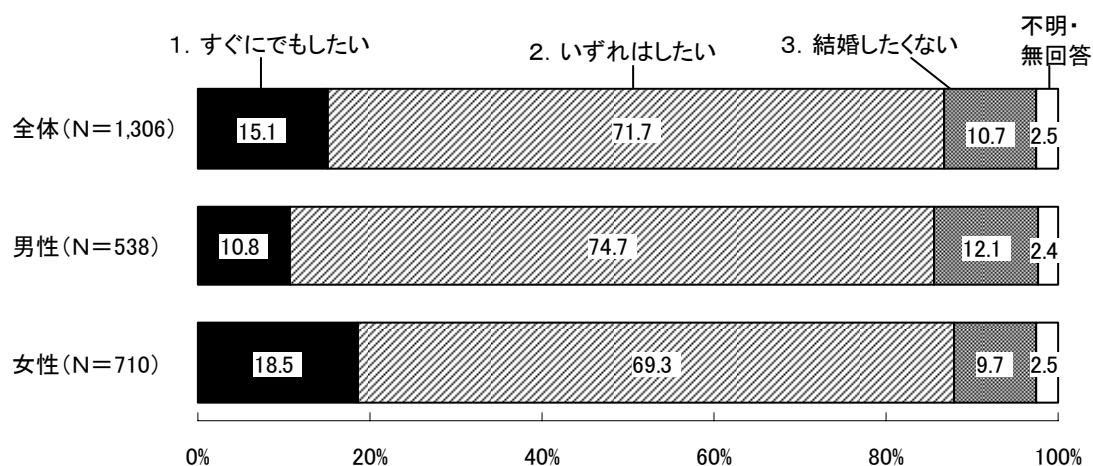


問 11-1～問 11-3 は問 11 で「2」, 「3」を選ばれた方におうかがいします。

問 11-1 今後、結婚したいと思いますか。

「2. いずれはしたい」が71.7%と最も高く、「1. すぐにでもしたい」が15.1%と結婚を望む割合が約9割となっている。

性別にみると、「1. すぐにでもしたい」については、「男性」が10.8%に対し、「女性」が18.5%と約8ポイントの差が生じている。

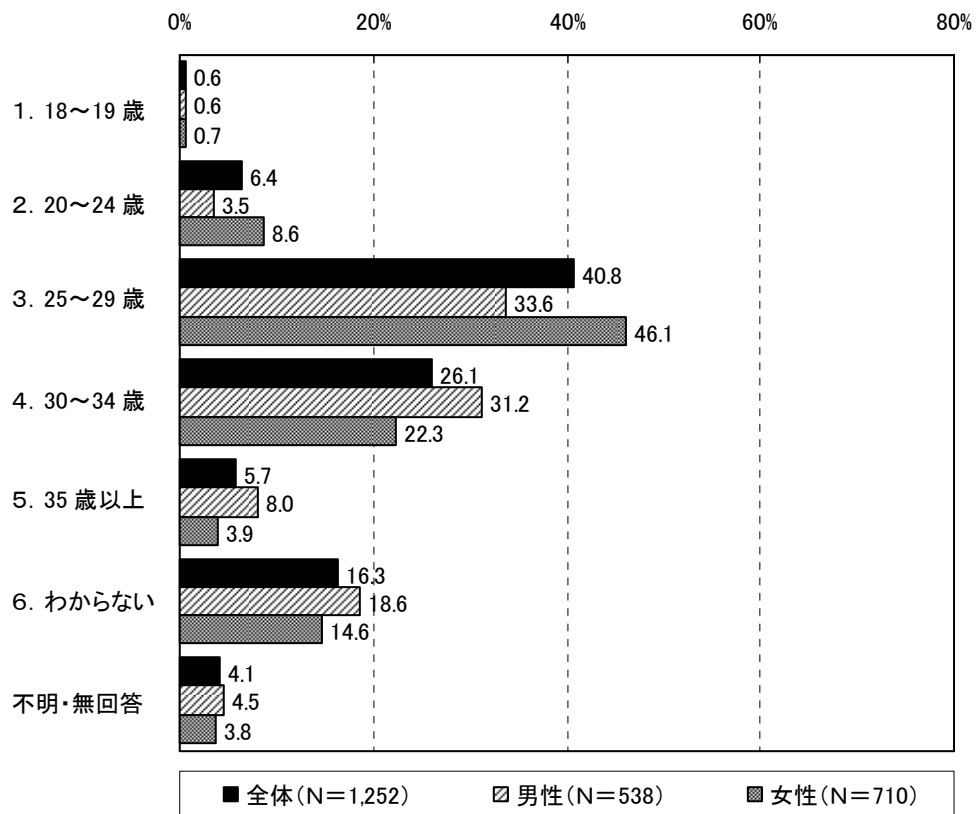


※問 11 で「2. 結婚していたことはあるが、離(死)別した」または「3. 結婚していない」のどちらかを選択した方だけの回答結果

### 問 11-2 あなたが結婚したいと思う年齢はどれですか。

「3. 25～29歳」が最も高く、次いで「4. 30～34歳」となっている。約7割の人が30歳前後で結婚したいと回答している。

性別にみると、「3. 25～29歳」は「女性」が「男性」よりも12.5ポイント高く、46.1%、「4. 30～34歳」は「男性」が「女性」よりも8.9ポイント高く、31.2%と男女で差が生じている。

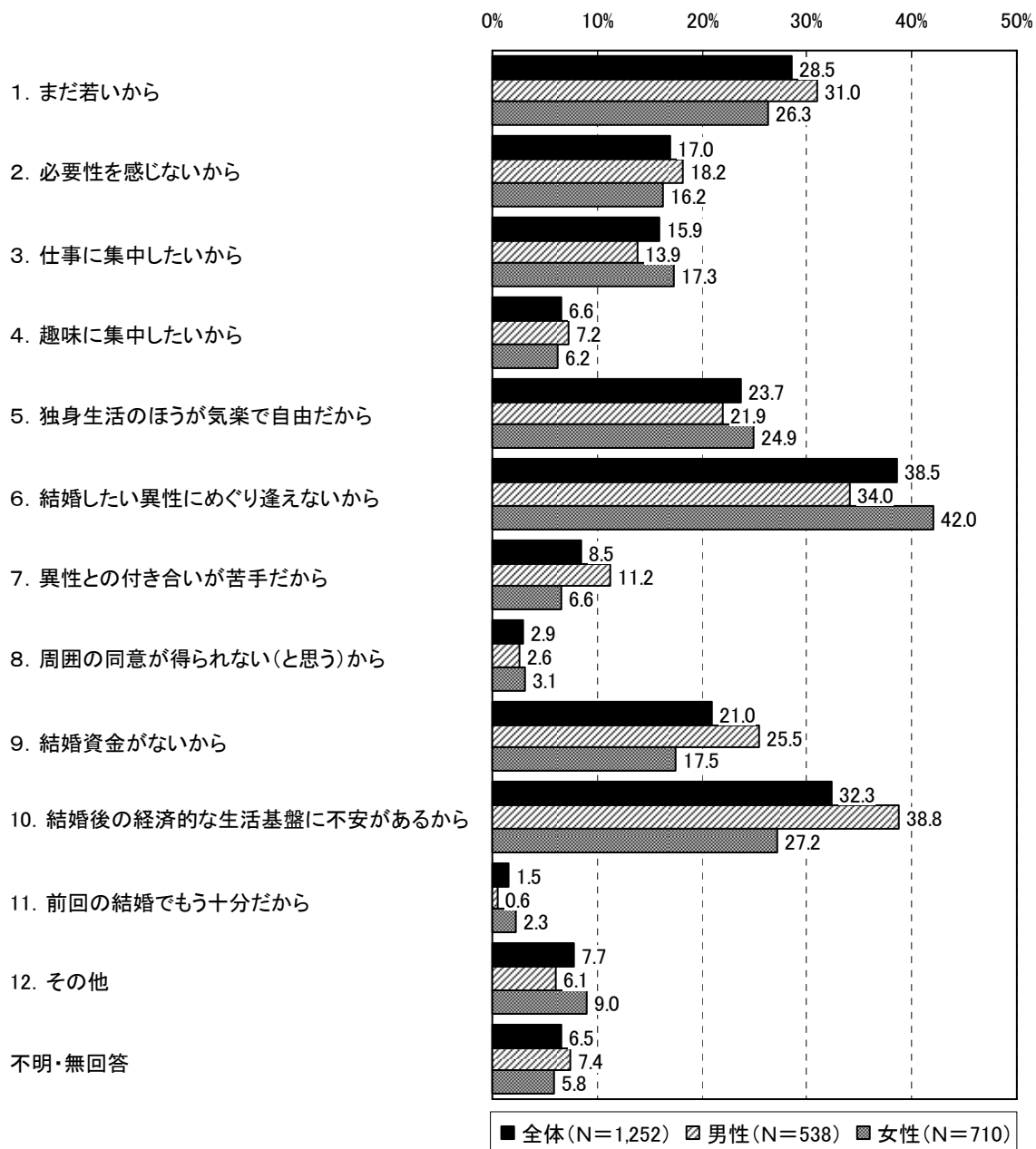


※問 11 で「2. 結婚していたことはあるが、離（死）別した」または「3. 結婚していない」のどちらかを選択した方のみの回答結果

問 11-3 結婚していない、あるいは、結婚したくない理由をおうかがいします。(あてはまるもの3つまで)

「6. 結婚したい異性にめぐり逢えないから」が38.5%と最も高く、次いで「10. 結婚後の経済的な生活基盤に不安があるから」が32.3%、「1. まだ若いから」が28.5%と高くなっている。

性別にみると、男性は「10. 結婚後の経済的な生活基盤に不安があるから」が、女性は「6. 結婚したい異性にめぐり逢えないから」が最も高くなっている。



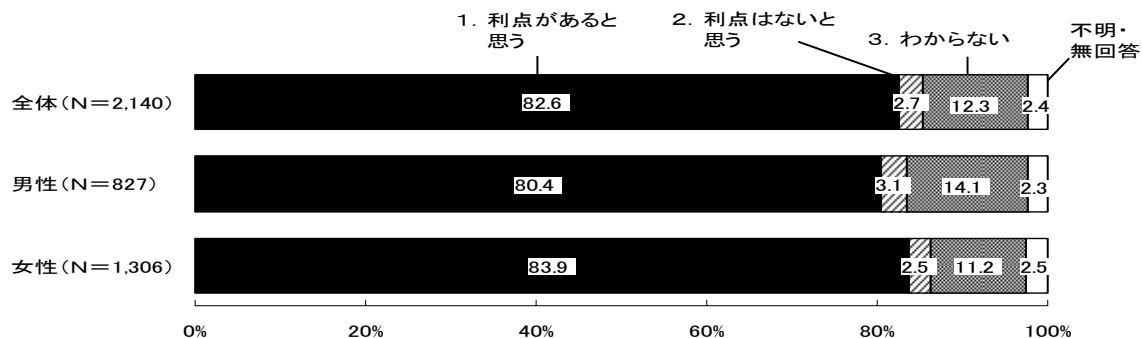
※問 11 で「2. 結婚していたことはあるが、離(死)別した」または「3. 結婚していない」のどちらかを選択した方だけの回答結果

問 12～問 16 までは、既婚・未婚にかかわらず想定でお答えください。

問 12 結婚生活は独身生活にはない利点があると思いますか。

結婚生活に「1. 利点があると思う」と回答した方が82.6%と大半を占め、「2. 利点はないと思う」と回答した方は2.7%にとどまっている。

性別による大きな差はみられない。

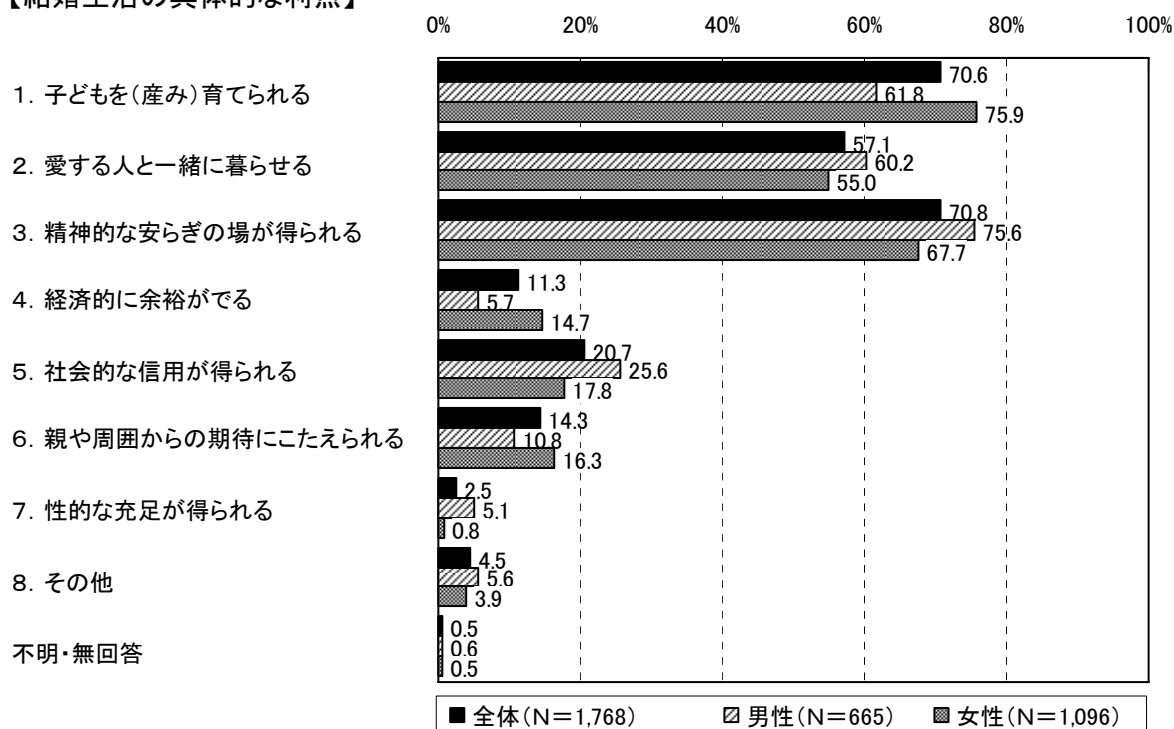


問 12-1 問 12 で「1」を選ばれた方におうかがいします。具体的な利点はどんなことが考えられますか。(あてはまるもの3つまで)

結婚生活に利点があると思うと回答した方に、具体的な利点について聞いたところ、「3. 精神的な安らぎの場が得られる」が70.8%と最も高く、次いで「1. 子どもを(産み)育てられる」が70.6%、「2. 愛する人と一緒に暮らせる」が57.1%と高くなっている。

性別にみると、「男性」では「3. 精神的な安らぎの場が得られる」が最も高く、「女性」では「1. 子どもを(産み)育てられる」が最も高くなっている。

【結婚生活の具体的な利点】



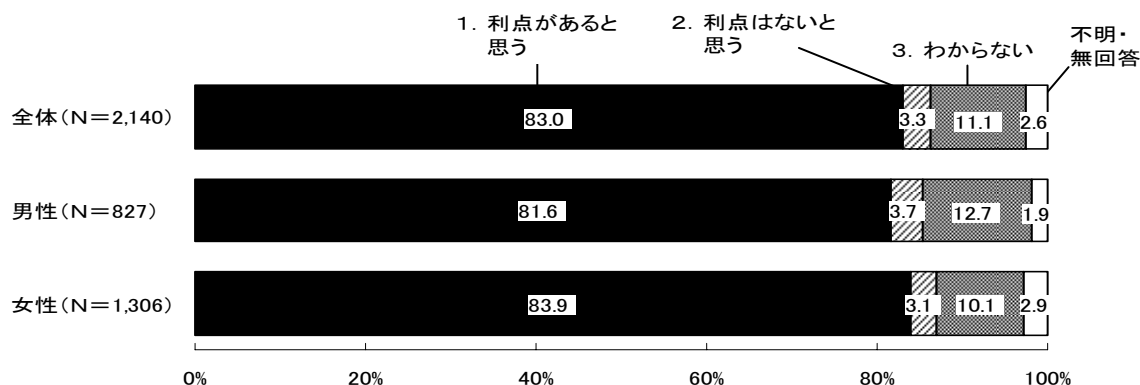
※問 12 で「1. 利点があると思う」を選択した方だけの回答結果



問 13 独身生活に結婚生活にはない利点があると思いますか。

独身生活に「1. 利点があると思う」と回答した方が83.0%と大半を占め、「2. 利点はないと思う」と回答した方は3.3%にとどまっている。

性別による大きな差はみられない。

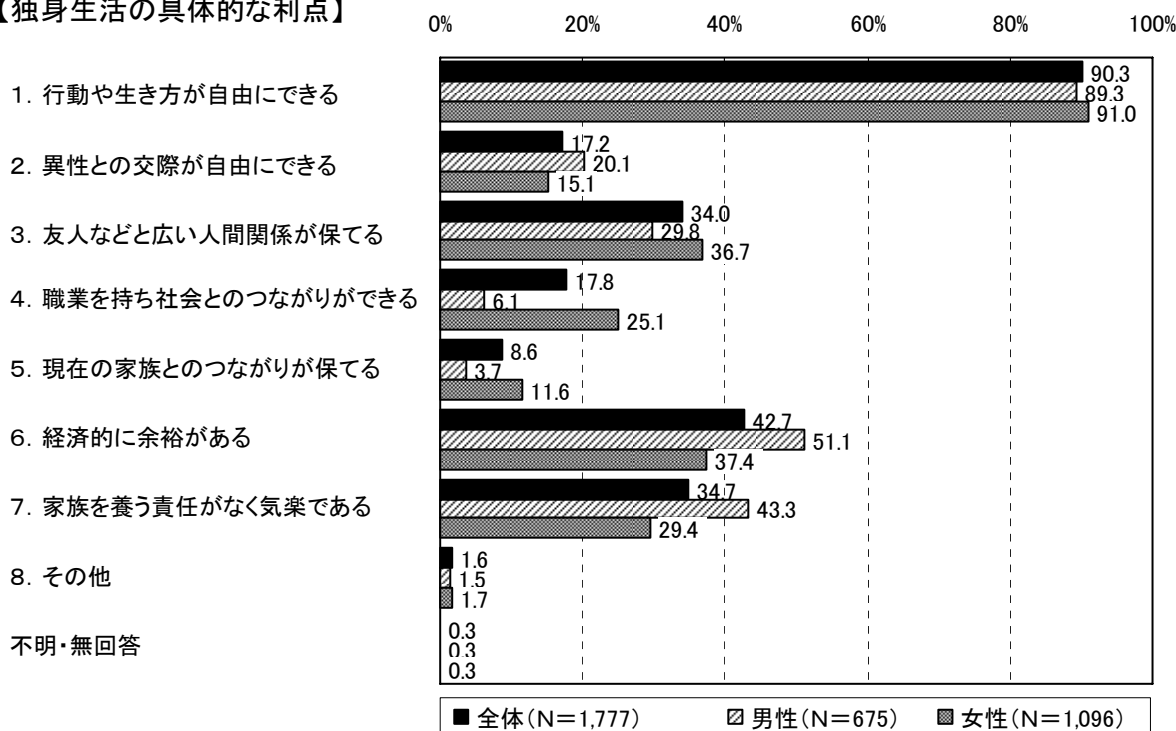


問 13-1 問 13 で「1」を選ばれた方におうかがいします。具体的な利点はどんなことが考えられますか。(あてはまるもの3つまで)

独身生活に利点があると思うと回答した方に、具体的な利点について聞いたところ、「1. 行動や生き方が自由にできる」が90.3%と最も高く、次いで「6. 経済的に余裕がある」が42.7%、「7. 家族を養う責任がなく気楽である」が34.7%と高くなっている。

性別にみると、「男性」「女性」ともに「1. 行動や生き方が自由にできる」が最も高く、次いで「6. 経済的に余裕がある」となっている。

【独身生活の具体的な利点】

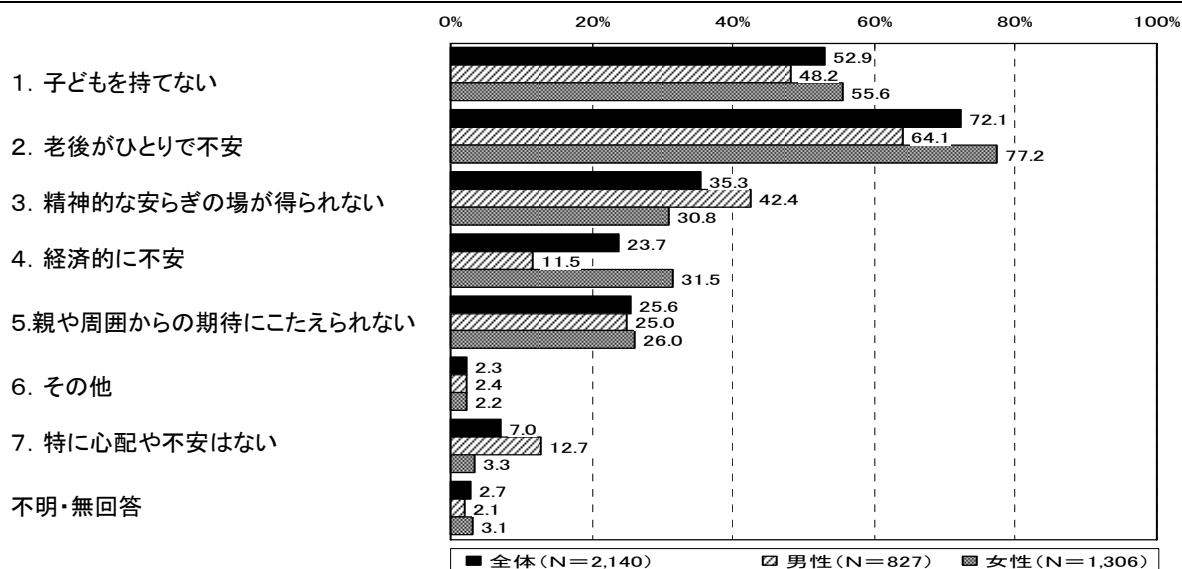


※問 13 で「1. 利点があると思う」を選択した方だけの回答結果

問 14 独身生活を続けるとした場合、どんな心配や不安がありますか。（あてはまるもの3つまで）

「2. 老後がひとりで不安」が72.1%と最も高く、次いで「1. 子どもを持ってない」が52.9%、「3. 精神的な安らぎの場が得られない」が35.3%と高くなっている。

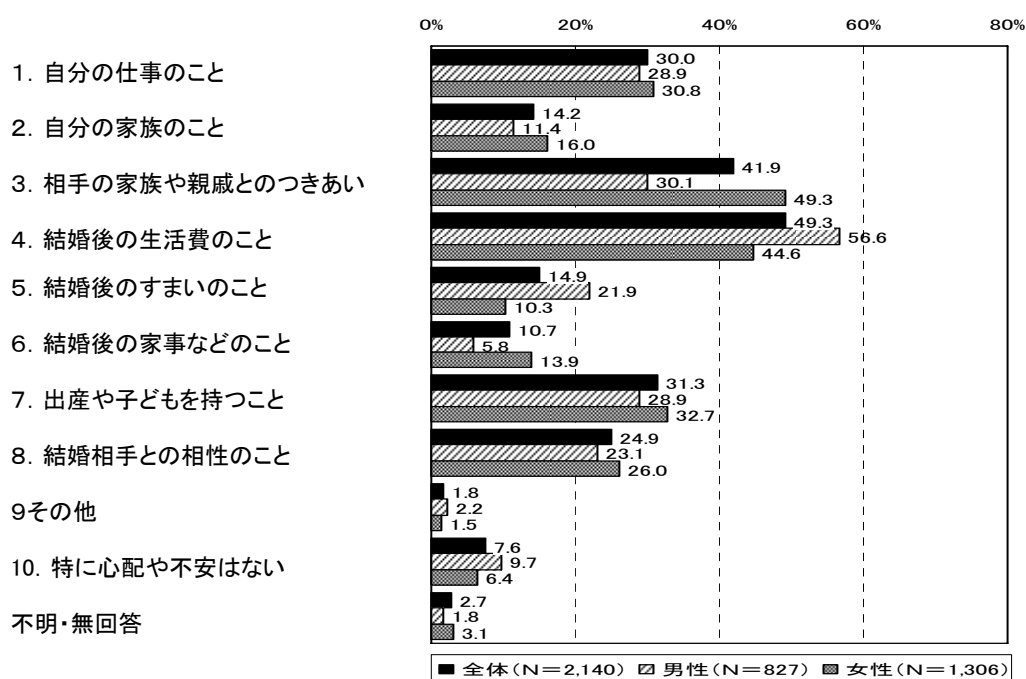
性別にみると、「4. 経済的に不安」については、「男性」が11.5%に対し、「女性」が31.5%と20ポイントの差が生じている。



問 15 結婚を考える場合、どんな心配や不安がありますか。（あてはまるもの3つまで）

「4. 結婚後の生活費のこと」が49.3%と最も高く、次いで「3. 相手の家族や親戚とのつきあい」が41.9%、「7. 出産や子どもを持つこと」が31.3%と高くなっている。

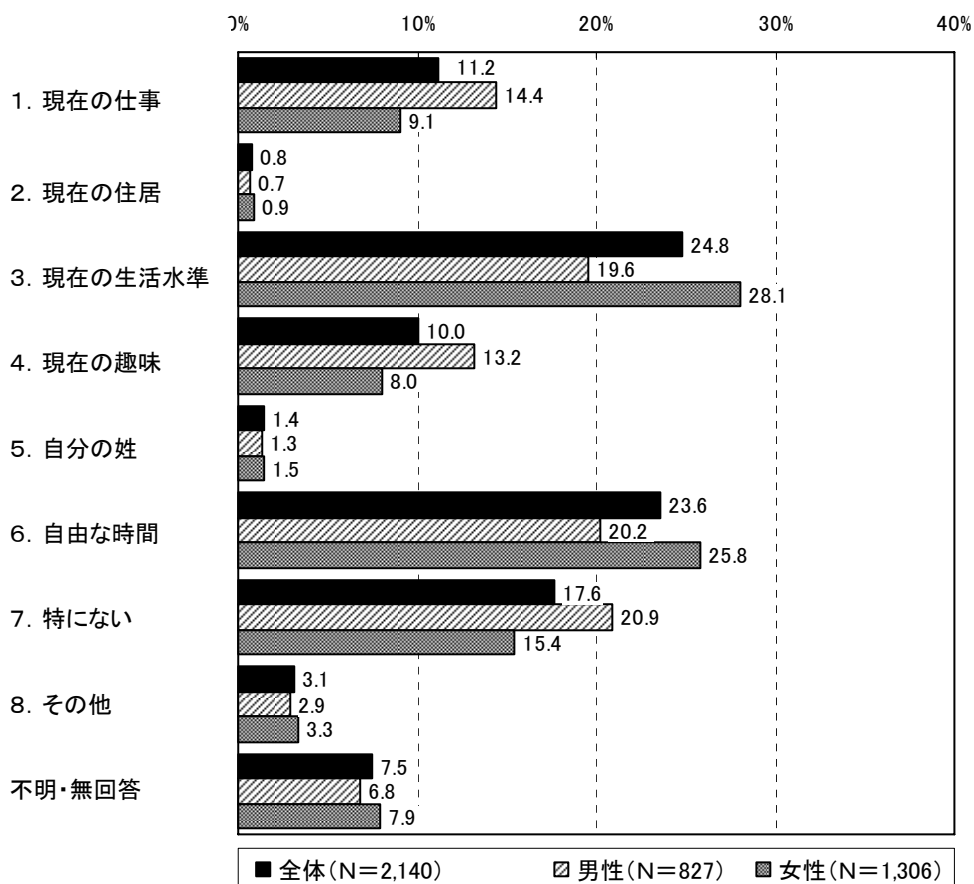
性別にみると、男性は「4. 結婚後の生活費のこと」、女性は「3. 相手の家族や親戚とのつきあい」がそれぞれ最も高くなっている。



問 16 結婚生活を始めるとした場合、失いたくないものは何ですか。(最も失いたくないもの1つだけ)

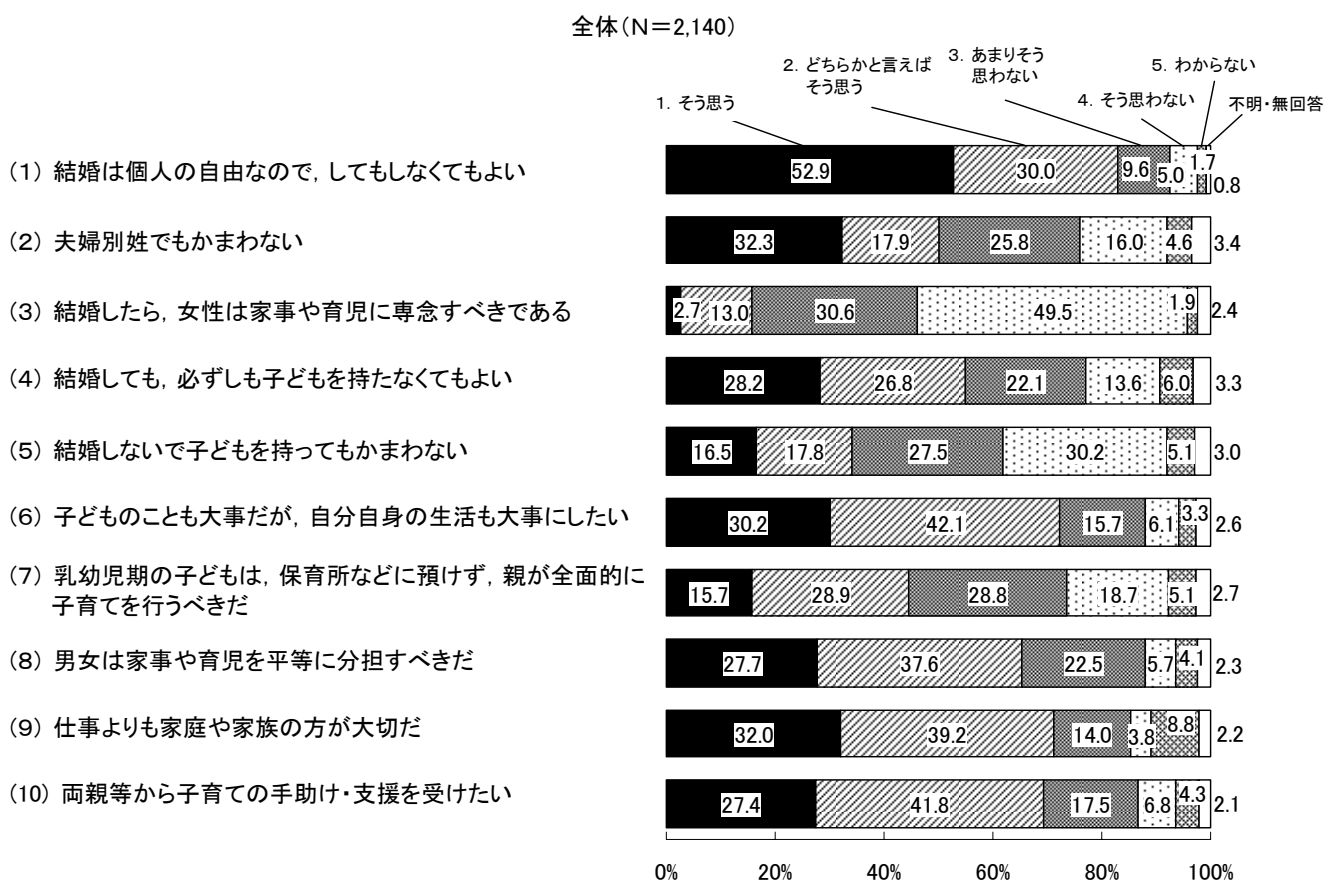
「3. 現在の生活水準」が24.8%と最も高く、次いで「6. 自由な時間」が23.6%、「7. 特にない」が17.6%と高くなっている。

性別にみると、「3. 現在の生活水準」については、「男性」が19.6%に対し、「女性」が28.1%と約10ポイントの差が生じている。



問 17 家族や家庭に関する次のような考え方について、どう思われますか。

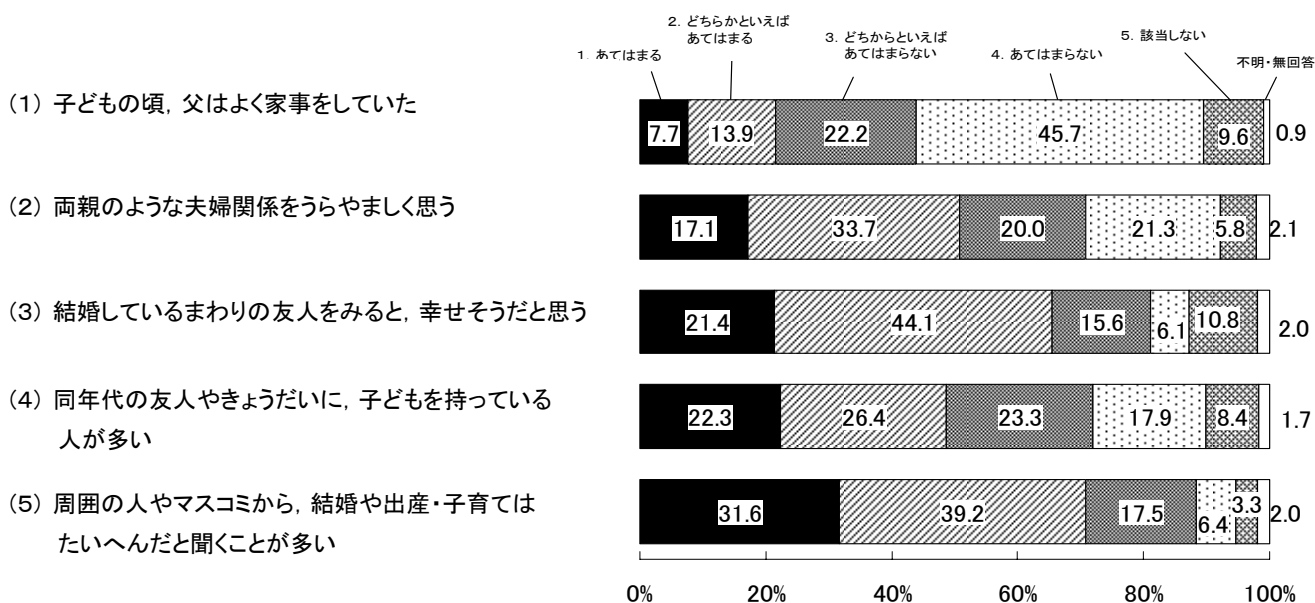
「1. そう思う」と「2. どちらかと言えばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合が高い項目は、「(1) 結婚は個人の自由なので、してもしなくてもよい」が 82.9%と最も高くなっている。一方で、「3. あまりそう思わない」と「4. そう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合が高い項目は、「(3) 結婚したら、女性は家事や育児に専念すべきである」が 80.1%と最も高くなっている。



問 18 あなたのご両親や友人などについて、あなたはどのように思われますか。

「1. あてはまる」と「2. どちらかといえばあてはまる」を合わせた『あてはまる』の割合が高い項目は、「(5) 周囲の人やマスコミから、結婚や出産・子育てはたいへんだと聞くことが多い」が最も高く70.8%となっている。一方で、「3. どちらかといえばあてはまらない」と「4. あてはまらない」を合わせた『あてはまらない』の割合が高い項目は、「(1) 子どもの頃、父はよく家事をしていた」が67.9%と最も高くなっている。

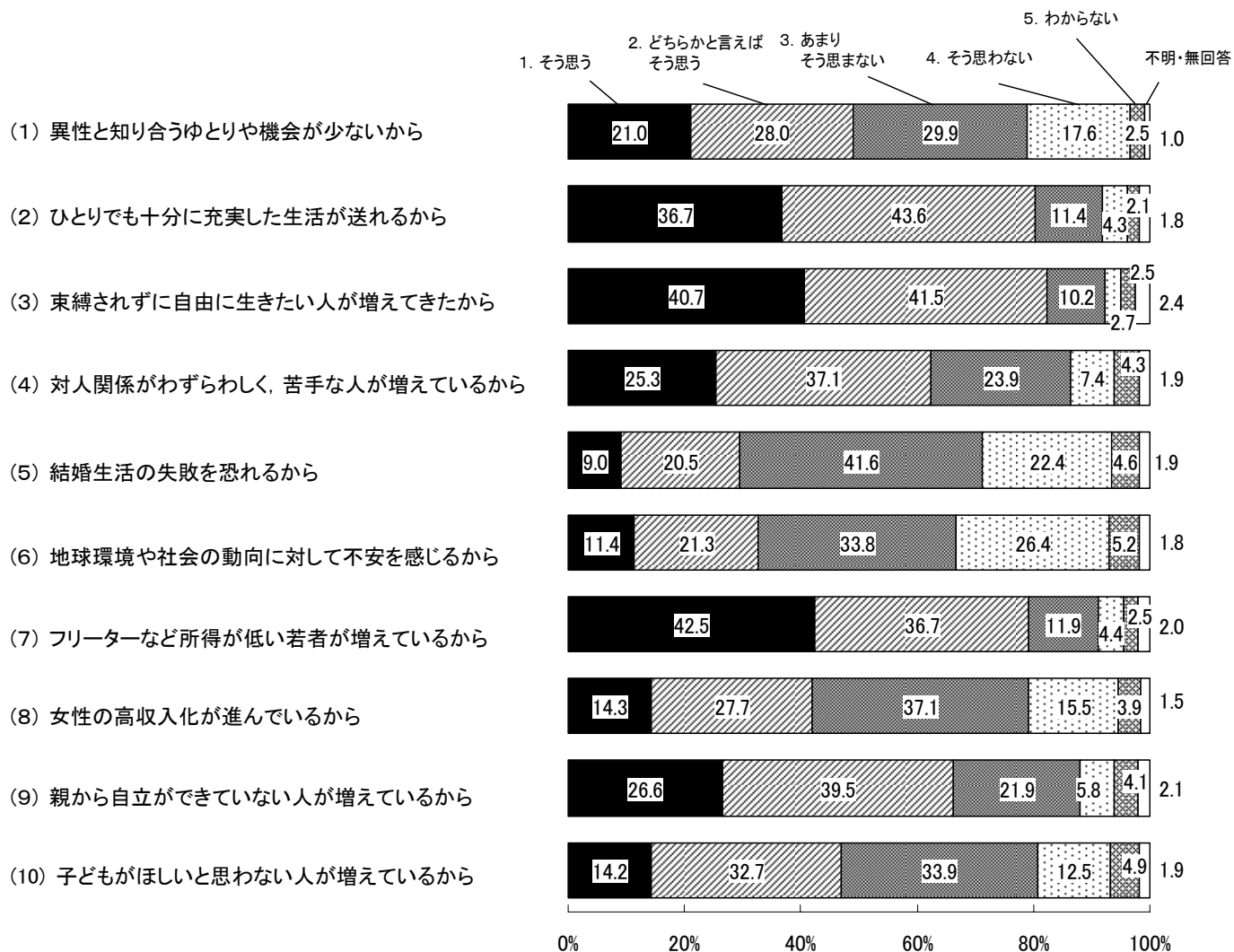
(N=2140)



問 19 最近、結婚しない人や晩婚の人が増えている理由・原因として次のようなことが考えられています。あなたはどのようにお考えですか。

「1. そう思う」と「2. どちらかと言えばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合が高い項目は、「(3) 束縛されずに自由に生きていきたい人が増えてきたから」が最も高く 82.2%となっている。一方で、「3. あまりそう思わない」と「4. そう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合が高い項目は、「(5) 結婚生活の失敗を恐れるから」が 64.0%と最も高くなっている。

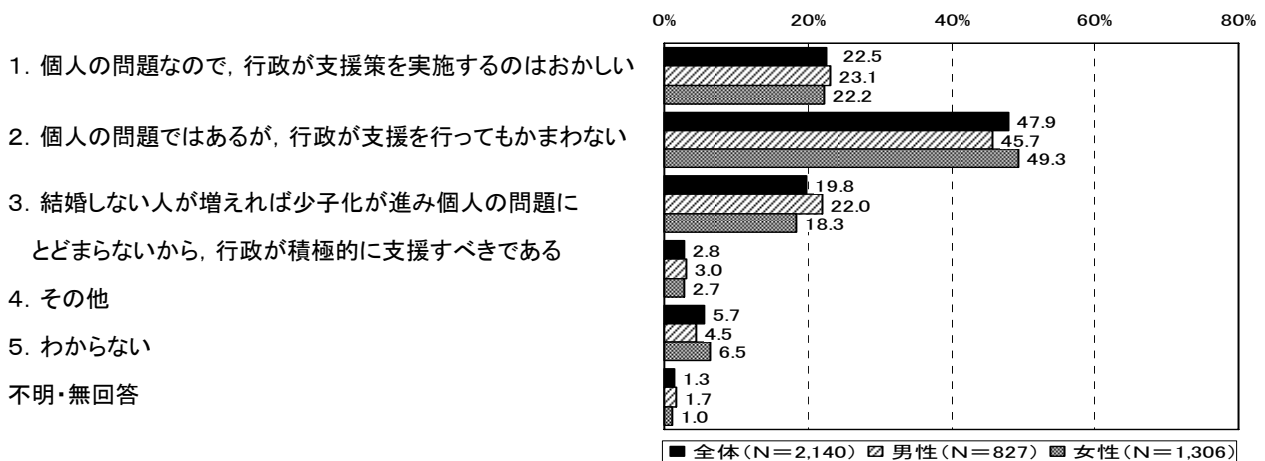
(N=2,140)



問 20 結婚する機会を増やすため、行政がなんらかの支援策を実施することについてどう思われますか。

「2. 個人の問題ではあるが、行政が支援を行ってもかまわない」と思われている方が 47.9%と最も高くなっている。一方で、「1. 個人の問題なので、行政が支援策を実施するのはおかしい」と思われている方が 22.5%となっており、「3. 結婚しない人が増えれば少子化が進み個人の問題にとどまらないから、行政が積極的に支援すべきである」と思われている方の 19.8%を上回っている。

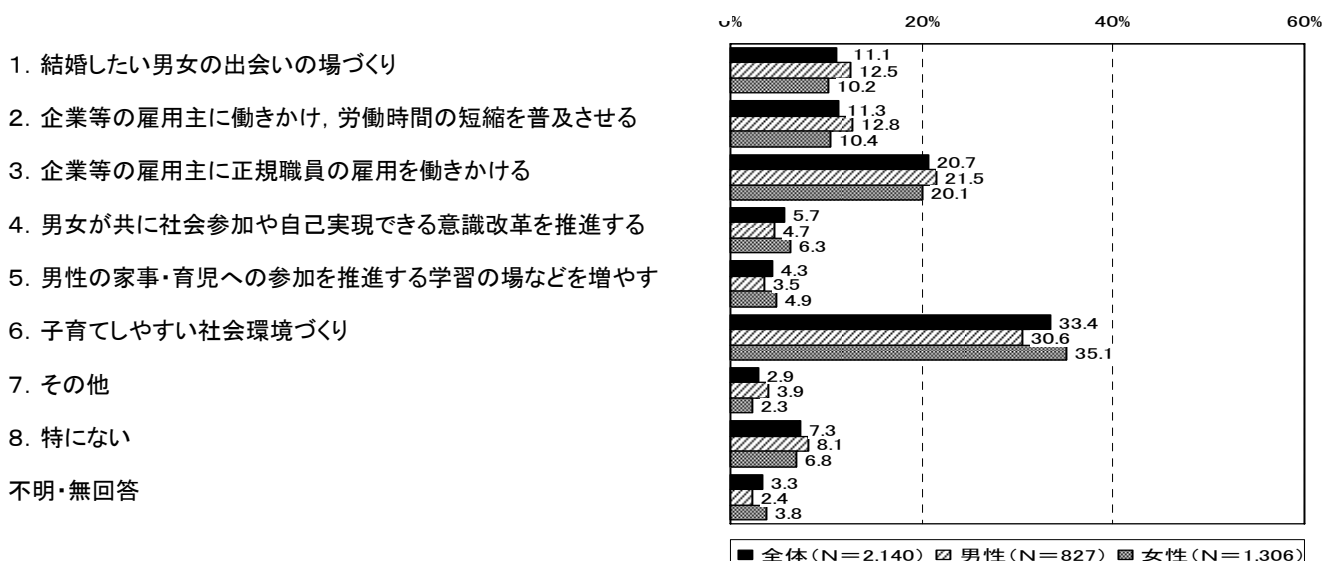
性別による大きな差はみられない。



問 21 結婚の支援のため、行政が実施することが望ましい政策はどのような内容が考えられますか。(最も望ましいと考えられるもの1つ)

「6. 子育てしやすい社会環境づくり」が 33.4%と最も高く、次いで「3. 企業等の雇用主に正規職員の雇用を働きかける」、「2. 企業等の雇用主に働きかけ、労働時間の短縮を普及させる」といった企業等への啓発が高くなっている。

性別による大きな差はみられない。

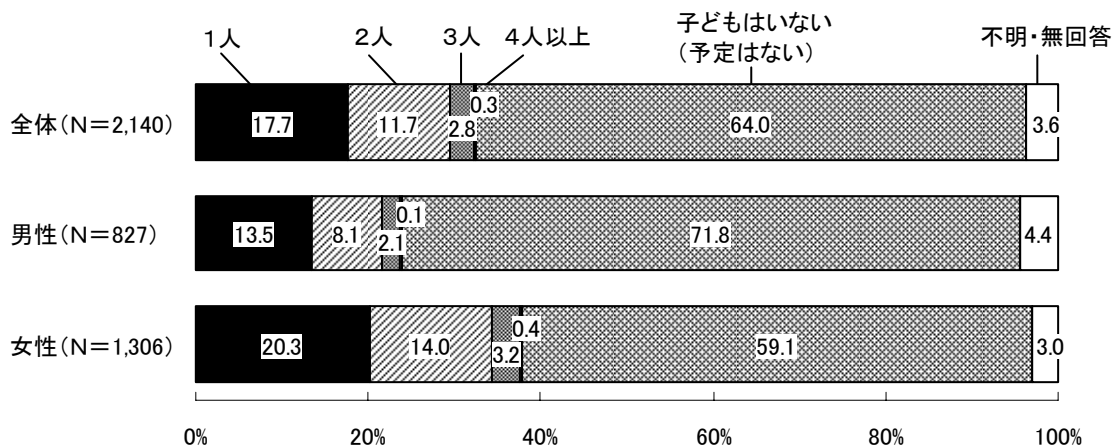


## 4 出産について

問 22 あなたは何人のお子さんがいらっしゃいますか。

「子どもはいない（予定はない）」が最も多く、次いで「1人」が多い。

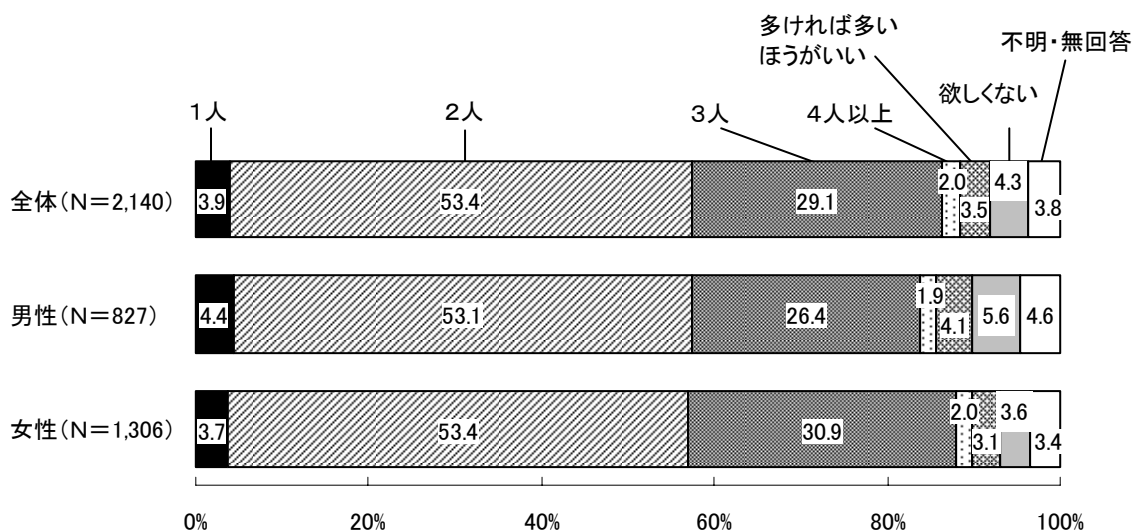
性別にみると、「子どもはいない（予定はない）」については、「男性」が71.8%に対し、「女性」が59.1%と約10ポイントの差が生じている。



問 23 あなたが、できれば持ちたい「理想」の子ども数は何人ですか。

「2人」が53.4%と過半数を占め、「3人」が29.1%、「多ければ多いほうがいい」が3.5%ある一方、「欲しくない」と回答した方は4.3%となっている。

性別による大きな差はみられない。

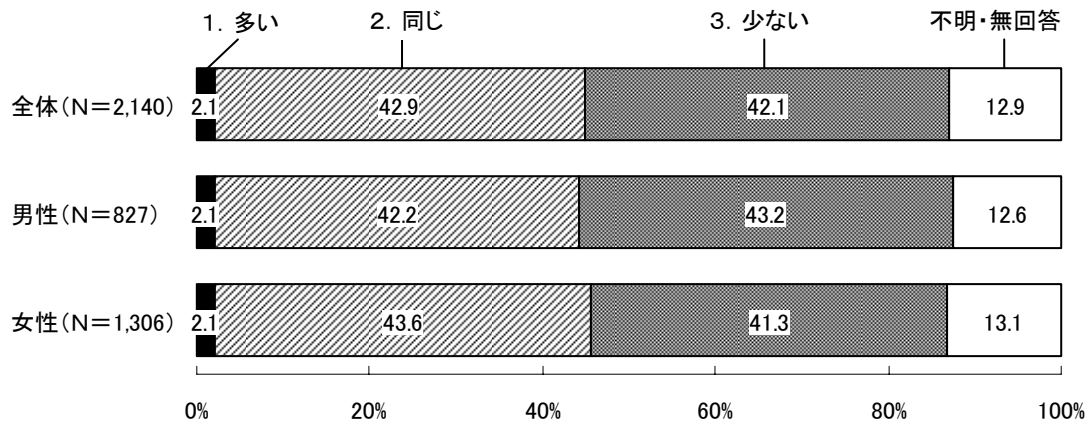




問 24 現実にいらっしゃる子どもの数、もしくは持とうと予定されている子どもの数は理想と比べていかがですか。

理想と「2. 同じ」と回答した方が 42.9%と高くなっているが、理想より「3. 少ない」と回答した方も 42.1%とほぼ同程度となっている。

性別による大きな差はみられない。

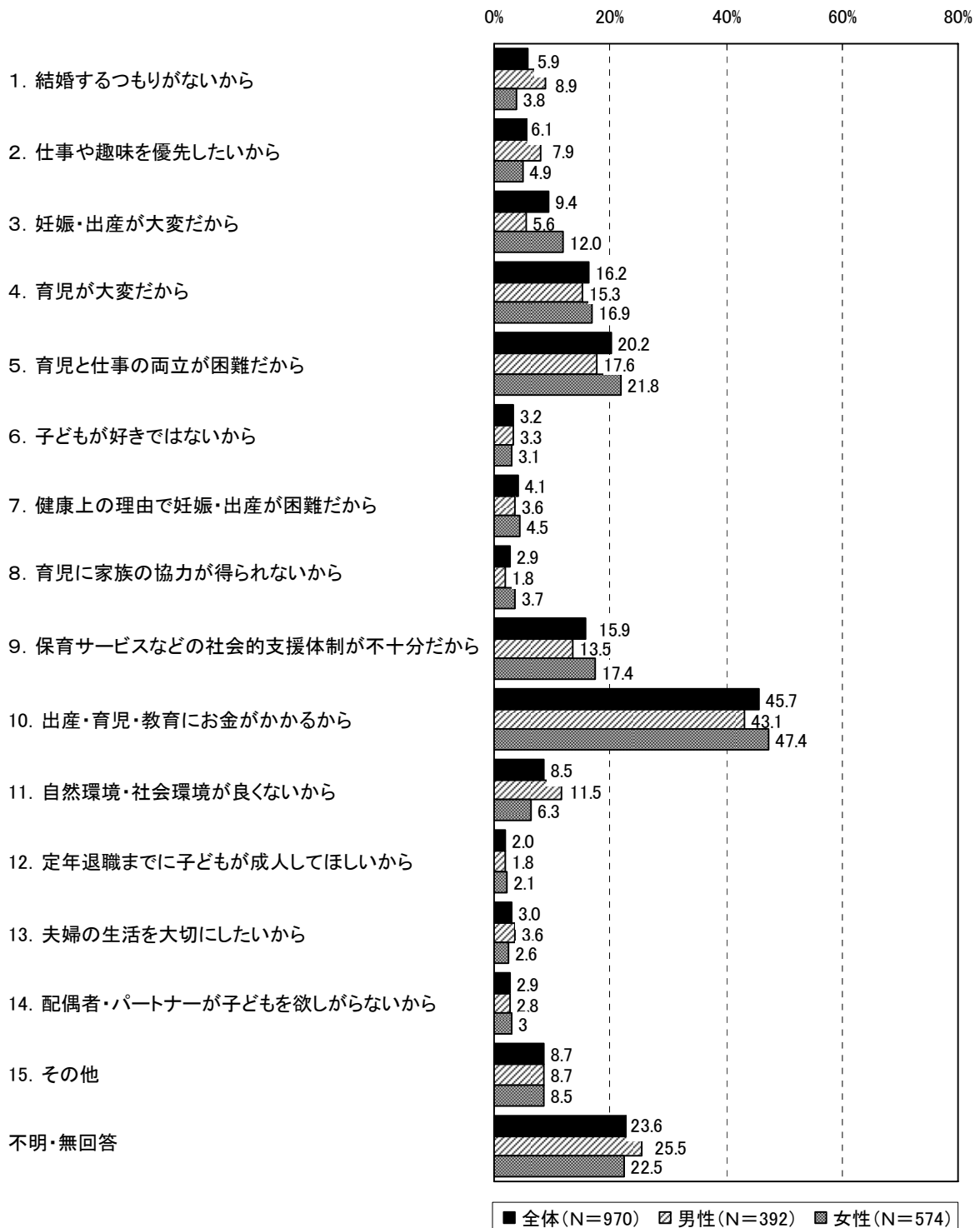


問 25, 問 26 は問 23 で「6」、または問 24 で「3」を選ばれた方におうかがいします。

問 25 子どもが欲しくない理由、実際には理想より少なくなりそうな理由はどんなことが考えられますか。(あてはまるもの3つまで)

「10. 出産・育児・教育にお金がかかるから」、「5. 育児と仕事の両立が困難だから」、「4. 育児が大変だから」などの項目が高くなっている。

性別による大きな差はみられない。

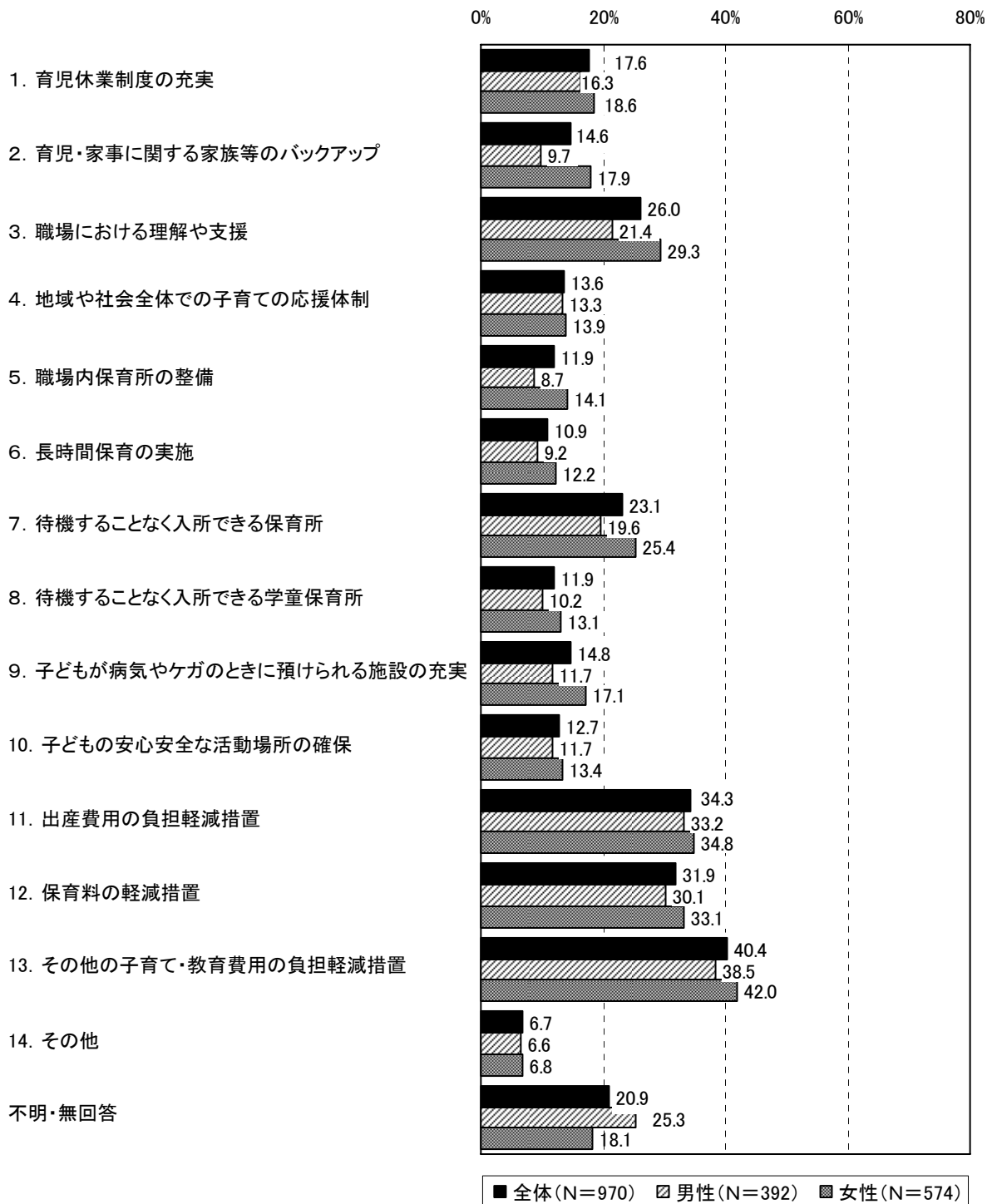


※問 23 で「6. 欲しくない」または問 24 で「3. 少ない」のどちらかを選択した方だけの回答結果

問 26 以下の項目について、もし十分に条件が満たされていたら、子どもをもったり、理想の子どもの数に近づいていたと思いますか。（これだけあればできるかもしれないと思われる最低限必要な項目）

「13. その他の子育て・教育費用の負担軽減措置」、「11. 出産費用の負担軽減措置」、「12. 保育料の軽減措置」といった経済的負担の軽減などの項目が高くなっており、次いで「3. 職場における理解や支援」や「7. 待機することなく入所できる保育所」が高くなっている。

性別にみると、「3. 職場における理解や支援」については、「男性」が21.4%に対し、「女性」が29.3%と約8ポイントの差が生じている。

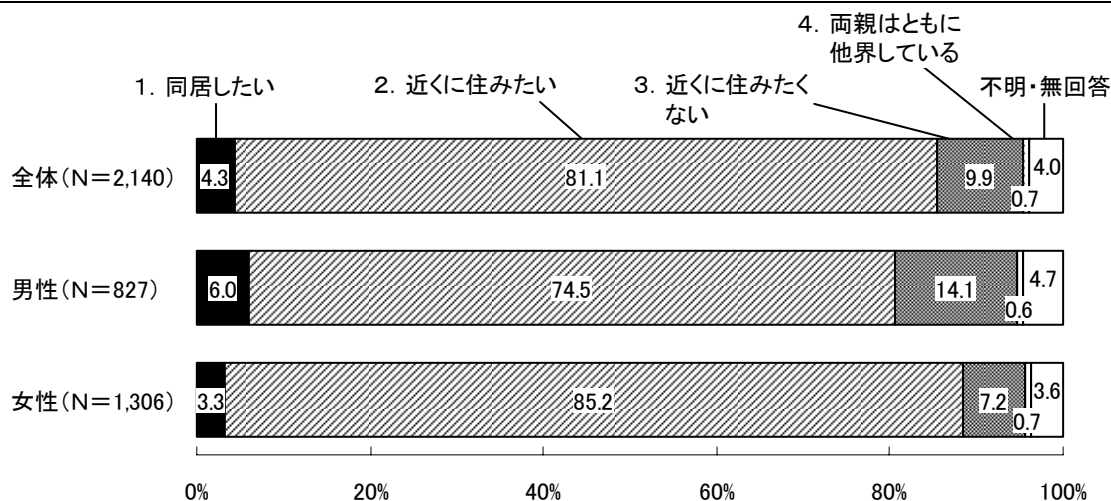


※問 23 で「6. 欲しくない」または問 24 で「3. 少ない」のどちらかを選択した方だけの回答結果

問 27 すべての方におうかがいします。あなたは出産後の実家との理想的な距離についてどう思われていますか。

出産後、実家の「2. 近くに住みたい」と回答した方が81.1%と大半を占めている。

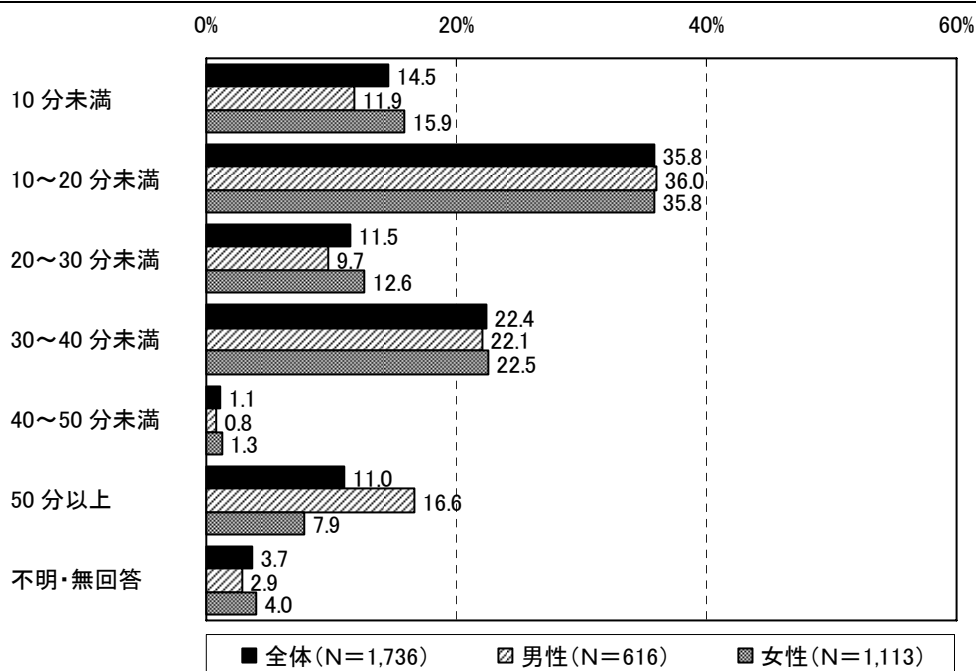
性別にみると、「近くに住みたい」については、「男性」が74.5%に対し、「女性」が85.2%と約10ポイントの差が生じている。



問 27-1 問 27 で「2」を選ばれた方におうかがいします。実家との理想的な距離は、車で何分くらいですか。

実家の近くに住みたいと回答した方に、理想的な距離は車で何分くらいかを聞いたところ、20分未満と回答した方が過半数を占めている。

性別にみると、「50分以上」について、「男性」が16.6%に対し、「女性」が7.9%と約9ポイントの差が生じている。



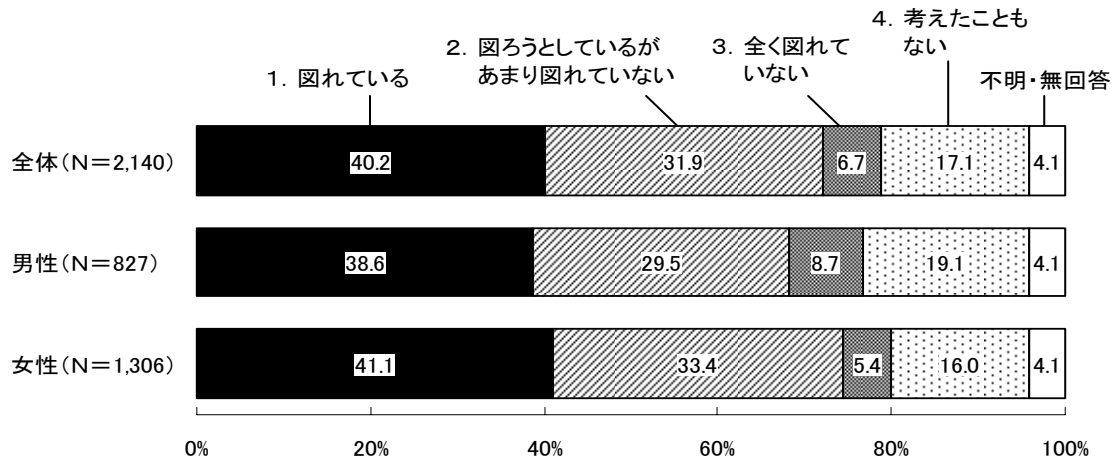
※問 27 で「2. 近くに住みたい」を選択した方だけの回答結果

## 5 仕事と生活の調和の推進（ワークライフバランス）について

問 28 あなたご自身やご家族は仕事と生活の調和が図れていると思いますか。

仕事と生活の調和が「1. 図れている」と回答した方が 40.2%、一方「2. 図ろうとしているがあまり図れていない」が 31.9%、「3. 全く図れていない」が 6.7%となっており、「4. 考えたこともない」と回答した方も 17.1%あった。

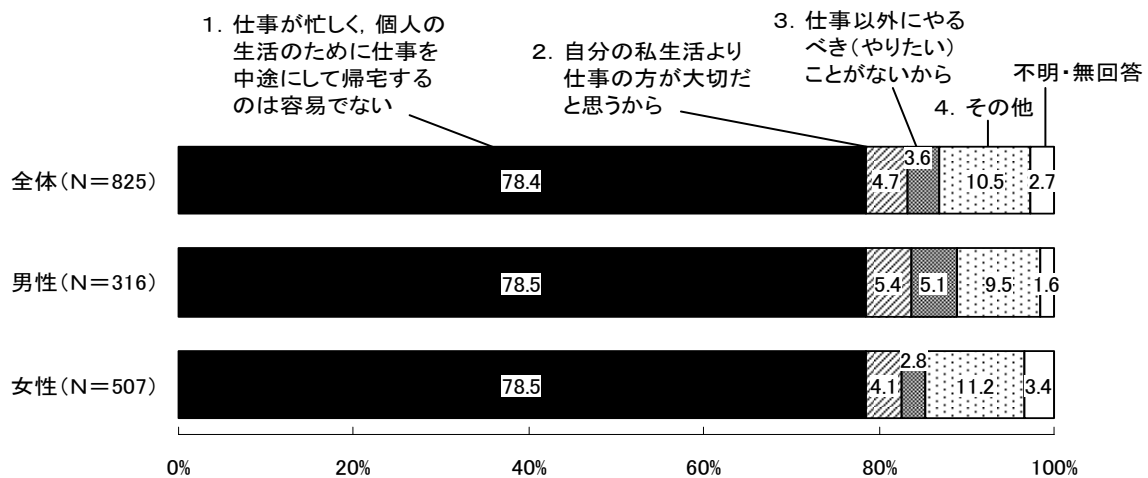
性別による大きな差はみられない。



問 28-1 問 28 で「2」または「3」を選ばれた方におうかがいします。図れていない理由は何ですか。

仕事と生活との調和を図ろうとしているがあまり図れていない、全く図れていないと回答した方に、その理由を聞いたところ、「1. 仕事が忙しく、個人の生活のために仕事を中途にして帰宅するのは容易でない」と回答した方が 78.4%と大半を占めている。

性別による大きな差はみられない。

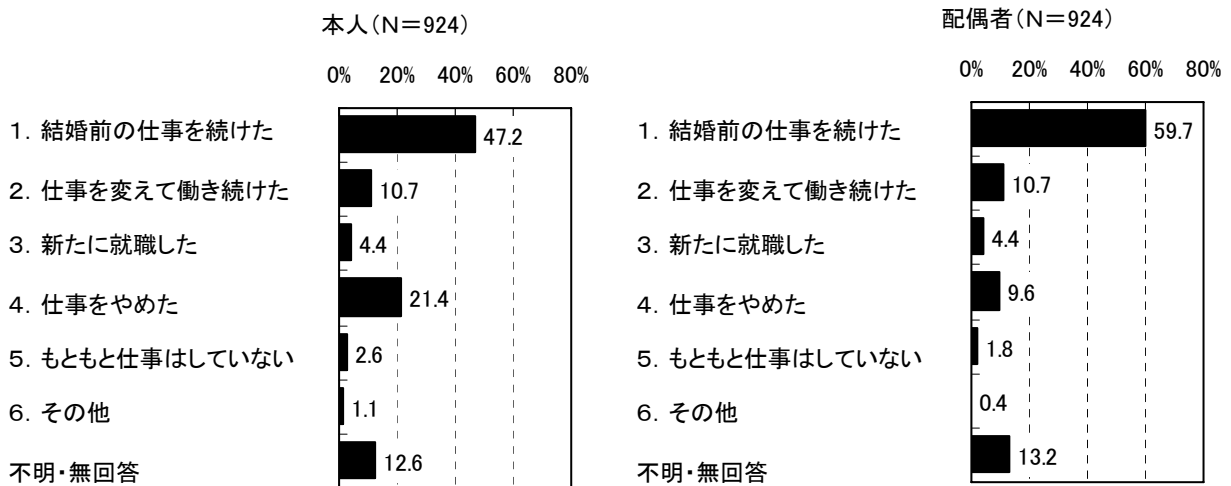


※問 28 で「2. 図ろうとしているがあまり図れていない」または「3. 全く図れていない」のどちらかを選択した方みの回答結果

問 29～問 32 は結婚（入籍していない、いわゆる事実婚を含みます）されている方におうかがい  
 します。

問 29 結婚の前後で、仕事の状況はどのように変わりましたか。

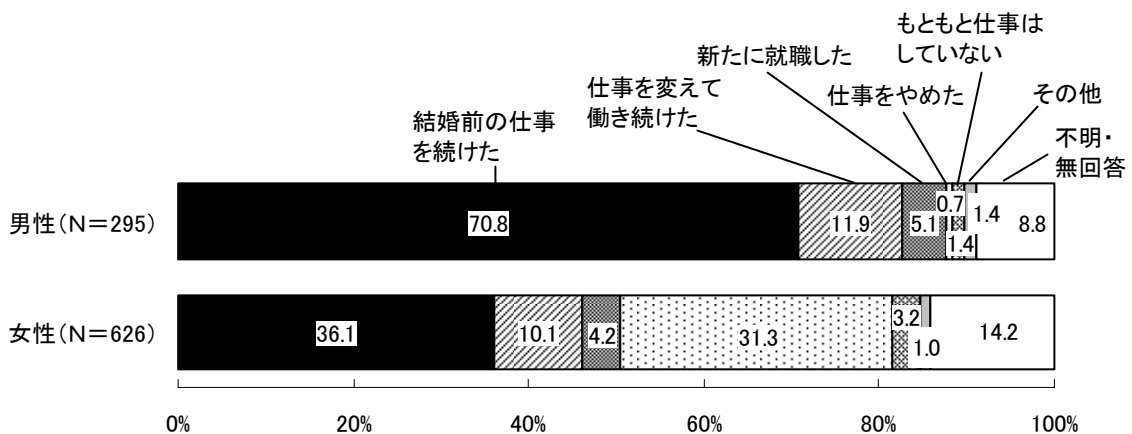
本人、配偶者ともに「1. 結婚前の仕事を続けた」が、本人は47.2%、配偶者は59.7%と過半数を占めている。次いで本人は「4. 仕事をやめた」が21.4%、「2. 仕事を変えて働き続けた」が10.7%、配偶者は「2. 仕事を変えて働き続けた」が10.7%、「4. 仕事をやめた」が9.6%となっている。



※結婚（入籍していない、いわゆる事実婚を含む）されている方だけの回答結果

【性別】

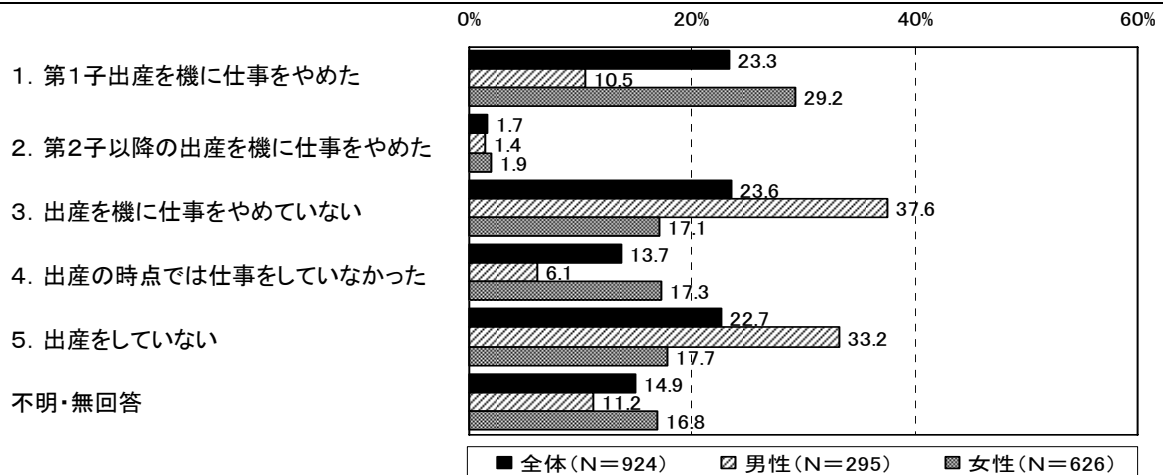
性別にみると、「男性」では「結婚前の仕事を続けた」など、仕事をしている割合が高くなっている。また、「女性」では「仕事をやめた」が「男性」と比べて特に高くなっている。



問 30 あなたは、出産（配偶者の出産を含む）を機に仕事をやめた経験がありますか。

出産（配偶者の出産を含む）を機に仕事をやめた経験がある方は、第1子出産時と第2子以降の出産時を合わせて25.0%、一方「3. 出産を機に仕事をやめていない」方が23.6%となっている。

性別にみると、「女性」では「1. 第1子出産を機に仕事をやめた」が「男性」に比べて特に高くなっている。



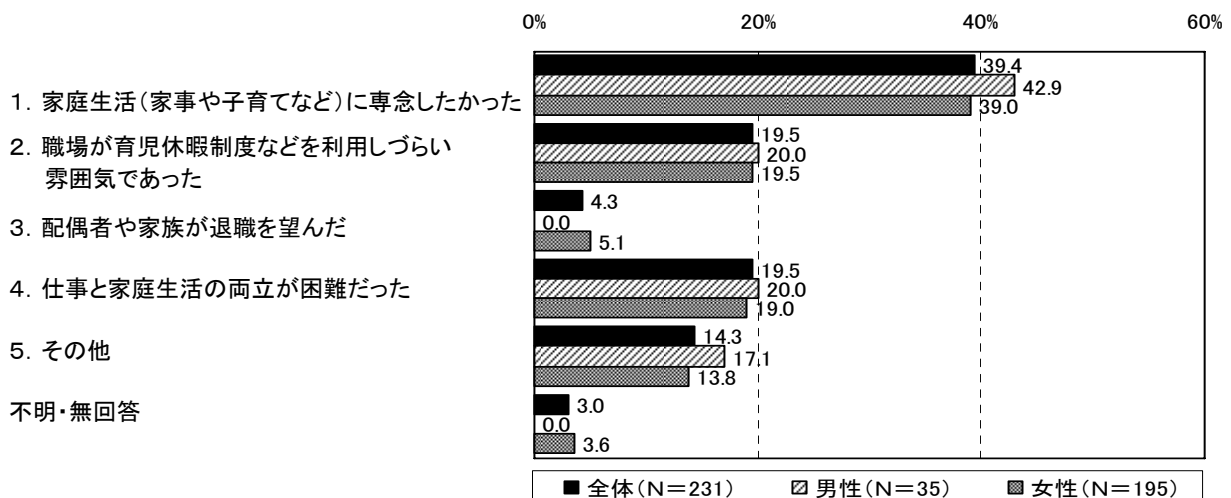
※結婚（入籍していない、いわゆる事実婚を含む）されている方だけの回答結果

問 30 で「1」、「2」を選ばれた方は問 30-1、2 にもご記入ください。

問 30-1 なぜ仕事をやめたのですか。

出産（配偶者の出産を含む）を機に仕事をやめた経験がある方に、なぜ仕事をやめたのか聞いたところ、「1. 家庭生活（家事や子育てなど）に専念したかった」が39.4%と最も高く、次いで「2. 職場が育児休暇制度などを利用しづらい雰囲気であった」、「4. 仕事と家庭生活の両立が困難だった」が19.5%となっている。

性別による大きな差はみられない。

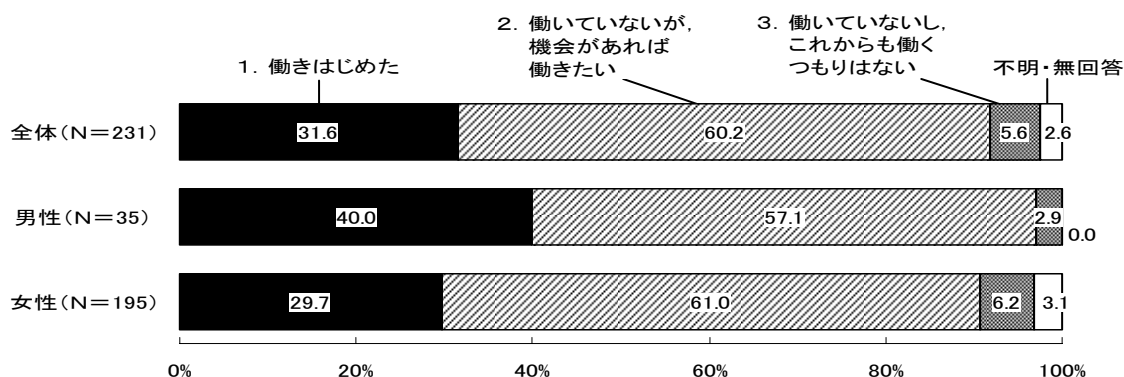


※結婚（入籍していない、いわゆる事実婚を含む）されている方で、問 30 で「1. 第1子出産を機に仕事をやめた」または「2. 第2子以降の出産を機に仕事をやめた」のどちらかを選んだ方の回答結果

問 30-2 仕事を辞めたあと、また働きはじめましたか。

問 30 で出産（配偶者の出産を含む）を機に仕事をやめた経験があると回答した方に、仕事を辞めたあと、また働きはじめたか聞いたところ、「1. 働きはじめた」が 31.6%、「2. 働いていないが、機会があれば働きたい」が 60.2%となっている。

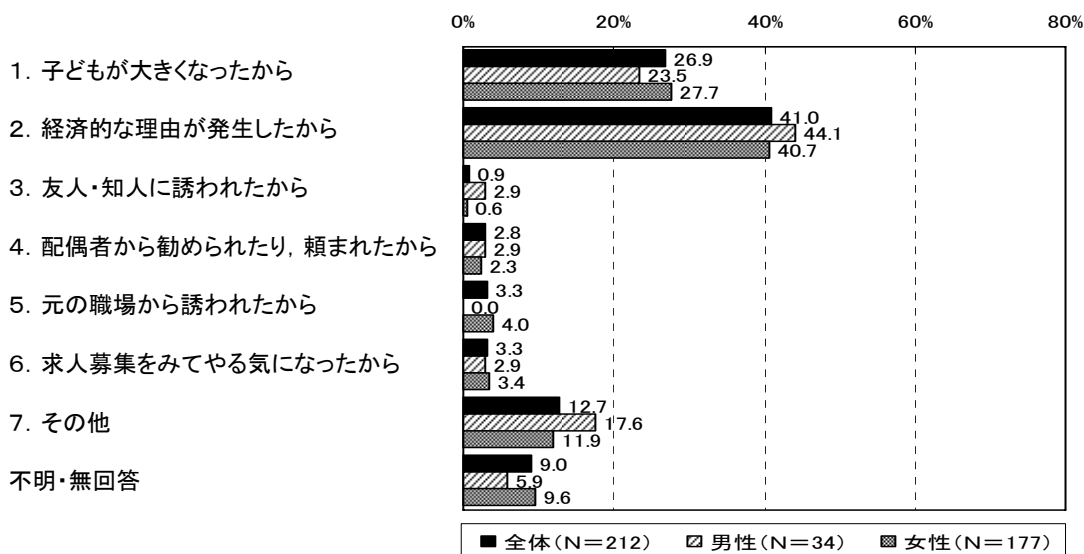
性別にみると、「1. 働きはじめた」については、「男性」が 40.0%に対し、「女性」が 29.7%と 10 ポイントの差が生じている。



※結婚（入籍していない、いわゆる事実婚を含む）されている方で、問 30 で「1. 第 1 子出産を機に仕事をやめた」または「2. 第 2 子以降の出産を機に仕事をやめた」のどちらかを選んだ方の回答結果

問 30-3 問 30-2 で「1」または「2」を選ばれた方におうかがいします。また働きはじめたきっかけは何でしたか。

さらに働きはじめた、または、働いていないが、機会があれば働きたいと回答した方に、働きはじめたきっかけについて聞いたところ、「2. 経済的な理由が発生したから」が 41.0%、「1. 子どもが大きくなったから」が 26.9%と高くなっている。



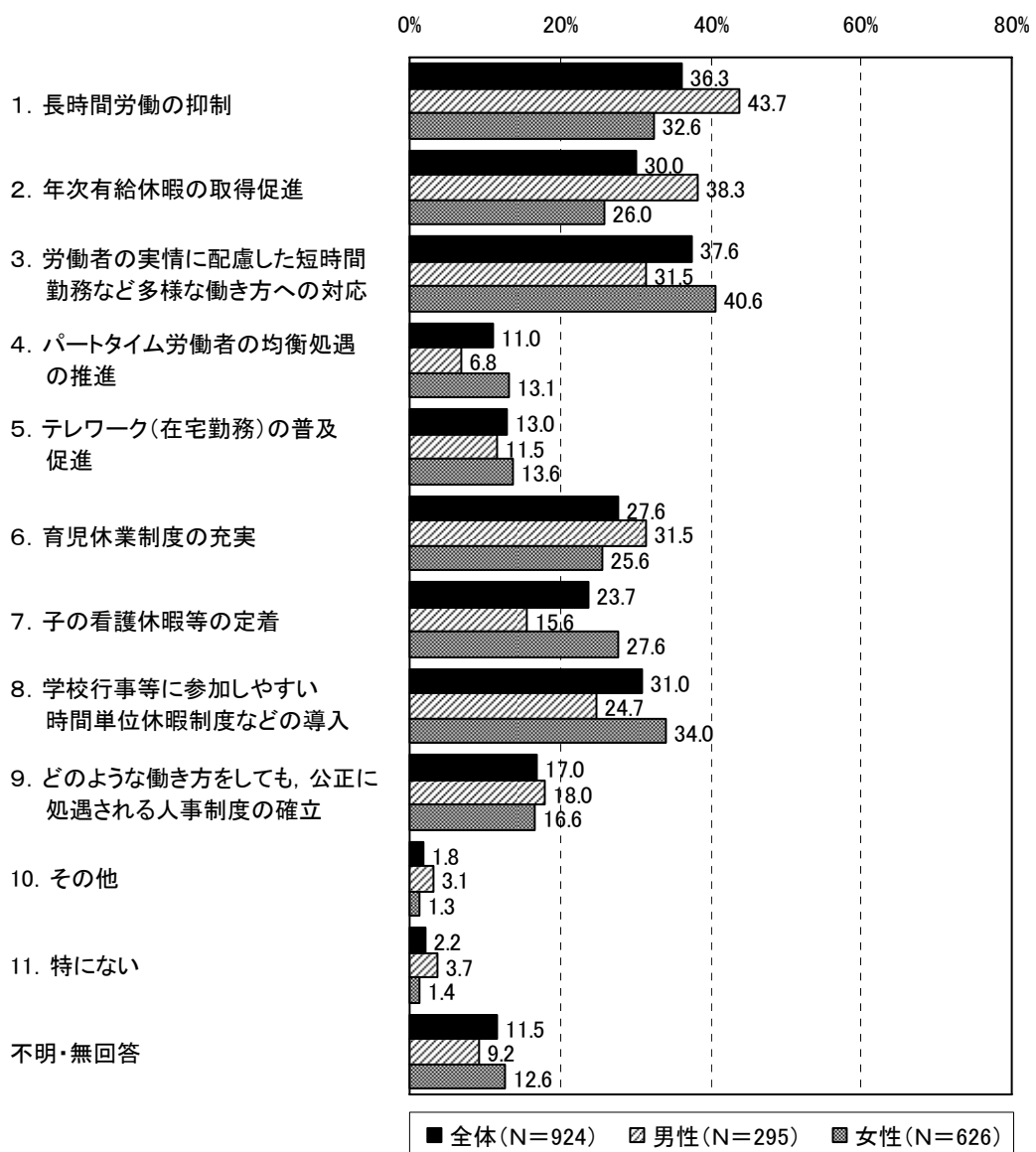
※結婚（入籍していない、いわゆる事実婚を含む）されている方で、問 30-2 で「1. 働きはじめた」または「2. 働いていないが、機会があれば働きたい」のどちらかを選んだ方の回答結果



問31 仕事と生活の調和の実現のために、企業等にどんなことに取り組んでほしいと思いますか。  
(3つまで)

「3. 労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応」が37.6%と最も高く、次いで「1. 長時間労働の抑制」が36.3%、「8. 学校行事等に参加しやすい時間単位休暇制度などの導入」が31.0%となっている。

性別にみると、「男性」では「1. 長時間労働の抑制」が高く、「女性」では「3. 労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応」が高く、異なる傾向となっている。また、「7. 子の看護休暇等の定着」「8. 学校行事等に参加しやすい時間単位休暇制度などの導入」については、「男性」より「女性」が約10ポイント高くなっている。

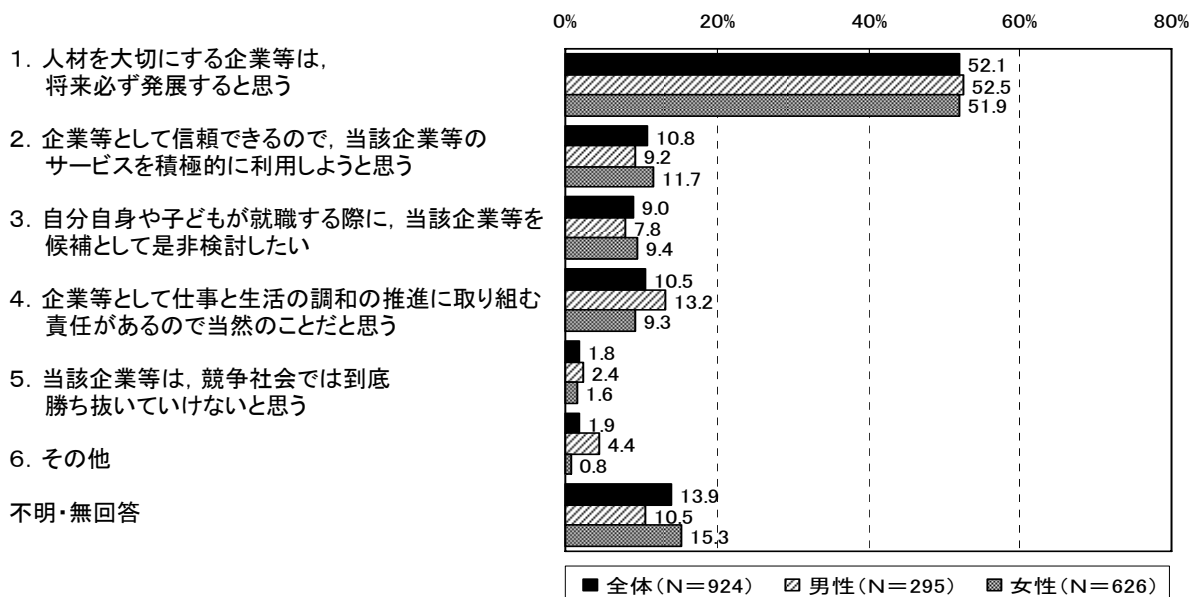


※結婚（入籍していない、いわゆる事実婚を含む）されている方だけの回答結果

問 32 仕事と生活の調和を積極的に推進したり，理解がある企業等についてどのように思いますか。

「1. 人材を大切にせる企業等は，将来必ず発展すると思う」が52.1%と最も高く，次いで「2. 企業等として信頼できるので，当該企業等のサービスを積極的に利用しようと思う」が10.8%，「4. 企業等として仕事と生活の調和の推進に取り組む責任があるので当然のことだと思う」が10.5%となっている。

性別による大きな差はみられない。

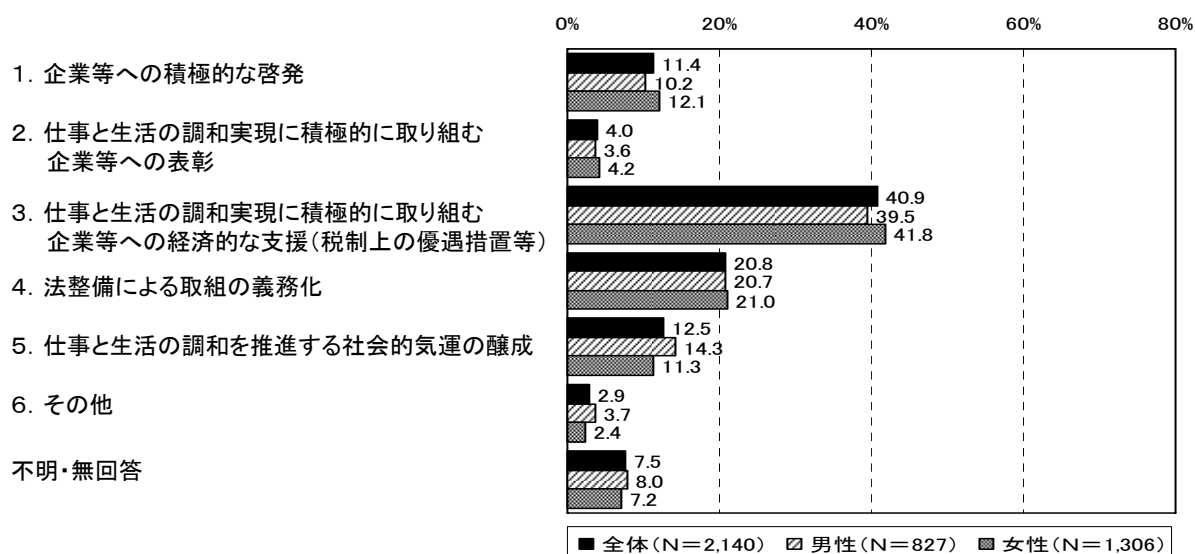


※結婚（入籍していない，いわゆる事実婚を含む）されている方だけの回答結果

問 33 仕事と生活の調和の実現のため，国や京都市にどのようなことを期待しますか。

「3. 仕事と生活の調和実現に積極的に取り組む企業等への経済的な支援(税制上の優遇措置等)」が40.9%と最も高く，次いで「4. 法整備による取組の義務化」が20.8%，「5. 仕事と生活の調和を推進する社会的気運の醸成」が12.5%となっている。

性別による大きな差はみられない。

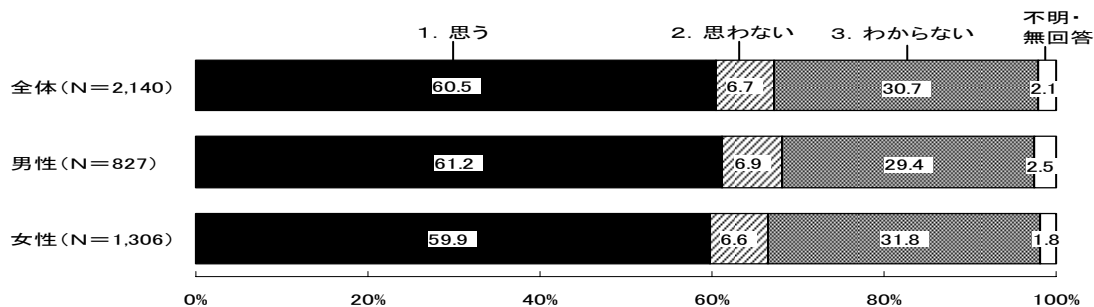


## 6 最後に

問 34 あなたは、結婚や出産後も京都市に住み続けたいと思いますか。

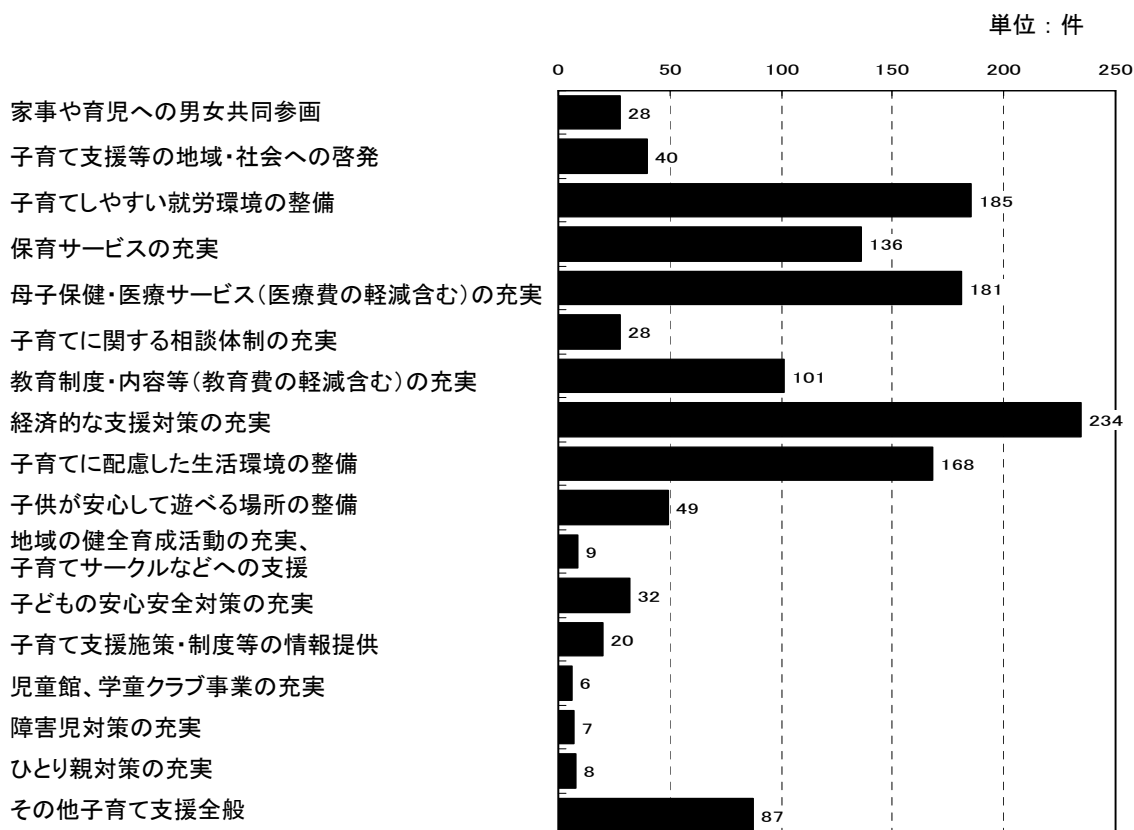
結婚や出産後も京都市に住み続けたいと「1. 思う」方が60.5%を占め、住み続けたいと「2. 思わない」方は6.7%にとどまっている。

性別による大きな差はみられない。



問 35 安心して子どもを産み、子どもを健やかに育てていくための行政の施策や、社会の制度のあり方について、特に望むことやご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

安心して子どもを産み、子どもを健やかに育てていくための行政の施策等について、「経済的な支援対策の充実」が17.7%と最も高く、次いで「子育てしやすい就労環境の整備」が14.0%、「母子保健・医療サービス（医療費の軽減含む）の充実」が13.7%と経済面や就労環境についての要望や意見が高くなっている。



## 子どもを共に育む京都市民憲章



わたくしたちは、

- 1 子どもの存在を尊重し、かけがえのない命を守ります。
- 1 子どもから信頼され、模範となる行動に努めます。
- 1 子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学べる取組を進めます。
- 1 子どもが安らぎ育つ、家庭の生活習慣と家族の絆きずなを大切にします。
- 1 子どもを見守り、人と人が支え合う地域のつながりを広げます。
- 1 子どもを育む自然の恵みを大切にし、社会の環境づくりを優先します。

平成 19 年 2 月 5 日（育児ニコニコ笑顔の日）制定

3 月 13 日 京都市会が憲章を積極的に推進する決議

### 京都市 結婚と出産に関する意識調査 【結果報告書】 （概要版）

発行年月 平成 21 年 6 月

京都市保健福祉局子育て支援部児童家庭課

〒604-0954

京都市中京区御池通柳馬場東入東八幡町 579 番地 京都御池創生館 6 階

電話：075-251-2380 FAX：075-251-2322

[http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/soshiki/8-3-1-0-0\\_1.html](http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/soshiki/8-3-1-0-0_1.html)

京都市印刷物 第 2 1 3 0 4 7 号

